

木更津工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針並びに実施基準

令和2年2月19日

運営協議会承認

1. 趣旨・目的

本校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指している。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めている。

これを確実に実施するためには、教育、研究、地域連携等の継続的な点検・評価が不可欠であり、その結果を管理運営の改善に反映していくことが重要と考える。

そこで、本方針は学校教育法第109条第1項により、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられていることにより、本校が実施する自己点検・評価の基本的な事項を定めるものである。

2. 取り纏め時期

高等専門学校は、自己点検・評価の措置に加え、当該学校の教育研究等の総合的な状況について、7年ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価（以下「認証評価」という。）を受けることが義務付けられている。（学校教育法第109条第2項、第123条及び学校教育法施行令第40条）

よって、評価項目の基準に準じ、毎年数項目について行い、5年間1サイクルとして全項目の評価を行い、自己点検・評価を取り纏めるものとする。

3. 実施体制及び項目

点検・評価委員会が自己点検・評価の総括を行う。

点検・評価委員会は、5年間1サイクルとする全項目評価の実施計画を作成する。

実施計画については、高等専門学校機関別認証評価の「自己評価書」で定められている基準、視点及び観点の各項目を考慮して、自己点検・評価の項目を定める。

点検・評価委員会は、学内の関係委員会及び事務部に自己点検・評価を依頼し、各部署は定められた各項目に基づいて自己評価書及び根拠資料を作成する。

ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについての、内容検討と見直しについては、教務委員会で行う。

また、運営諮問会議、機関別認証評価、JABEE認定審査等が行う外部評価結果についても、自己点検・評価委員会が取り纏め学校運営に反映する体制とする。

4. 自己点検・評価結果の公表

点検・評価委員会は、自己点検・評価の結果に基づき、本校における自己点検・評価として取り纏め、本校は、その性質上開示に適さないものを除き、これを公表するものとする。

5. 自己点検・評価に基づく改善

点検・評価委員会が中心となって、内部質保証システム（自己点検・評価の結果を自己改善に繋げるためのシステム）としてPDCAサイクルを運用し、本校の活動の改善を継続的に推進するものとする。

て高等専門学校評価基準を満たしていると認定されました。

自己評価書

本校が提出した自己評価書の内容を以下に示します。

基準等	内容
目的	本校の現状および特徴、目的  (PDF:24KB)
基準1	高専の目的  (PDF:5.1MB)
基準2	教員組織（実施体制）  (PDF:985KB)
基準3	教員および教育支援者  (PDF:1.1MB)
基準4	学生の受入  (PDF:1.4MB)
基準5	教育内容及び方法（準学士課程、専攻科課程）  (PDF:14.5MB)
基準6	教育の成果  (PDF:3.5MB)
基準7	学生支援等  (PDF:6.6MB)
基準8	施設・設備  (PDF:2.1MB)
基準9	教育の質の向上及び改善のためのシステム  (PDF:503KB)
基準10	財務  (PDF:810KB)
基準11	管理運営  (PDF:1.8MB)
選択的評価事項	(A) 研究活動の状況 (B) 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況  (PDF:5.1MB)

評価報告書

独立行政法人大学評価・学位授与機構による評価報告書を以下に示します。
(独立行政法人大学評価・学位授与機構へのリンク 別ウインドウで開きます)

- ▶ [基準1～基準11](#)  (PDF:438KB)
- ▶ [選択的評価事項A・B](#)  (PDF:257KB)

自己点検・評価

- ・ [自己点検・評価に関する基本方針並びに実施基準](#) 
- ・ [自己点検評価\(5年1サイクル\)計画表](#) 
- ・ [令和元年度 自己点検・評価報告](#) 
- ・ [平成30年度 自己点検・評価報告](#) 
- ・ [平成29年度 自己点検・評価報告](#) 
- ・ [平成28年度 自己点検・評価報告](#) 
- ・ [平成27年度 自己点検・評価報告](#) 
- ・ [平成26年度 自己点検・評価報告](#) 



教育活動に対する意見やデータの収集・蓄積

学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み(内部質保証システム)が機能するために、各種意見を取集・蓄積・分析することが求められる。
これに則り、これまでの意見取集・蓄積について再検討し、意見取集方法の明文化(ルール化)や分析を容易に実施できるようにアンケート項目を精査し、改善・整備する。

【注意事項】

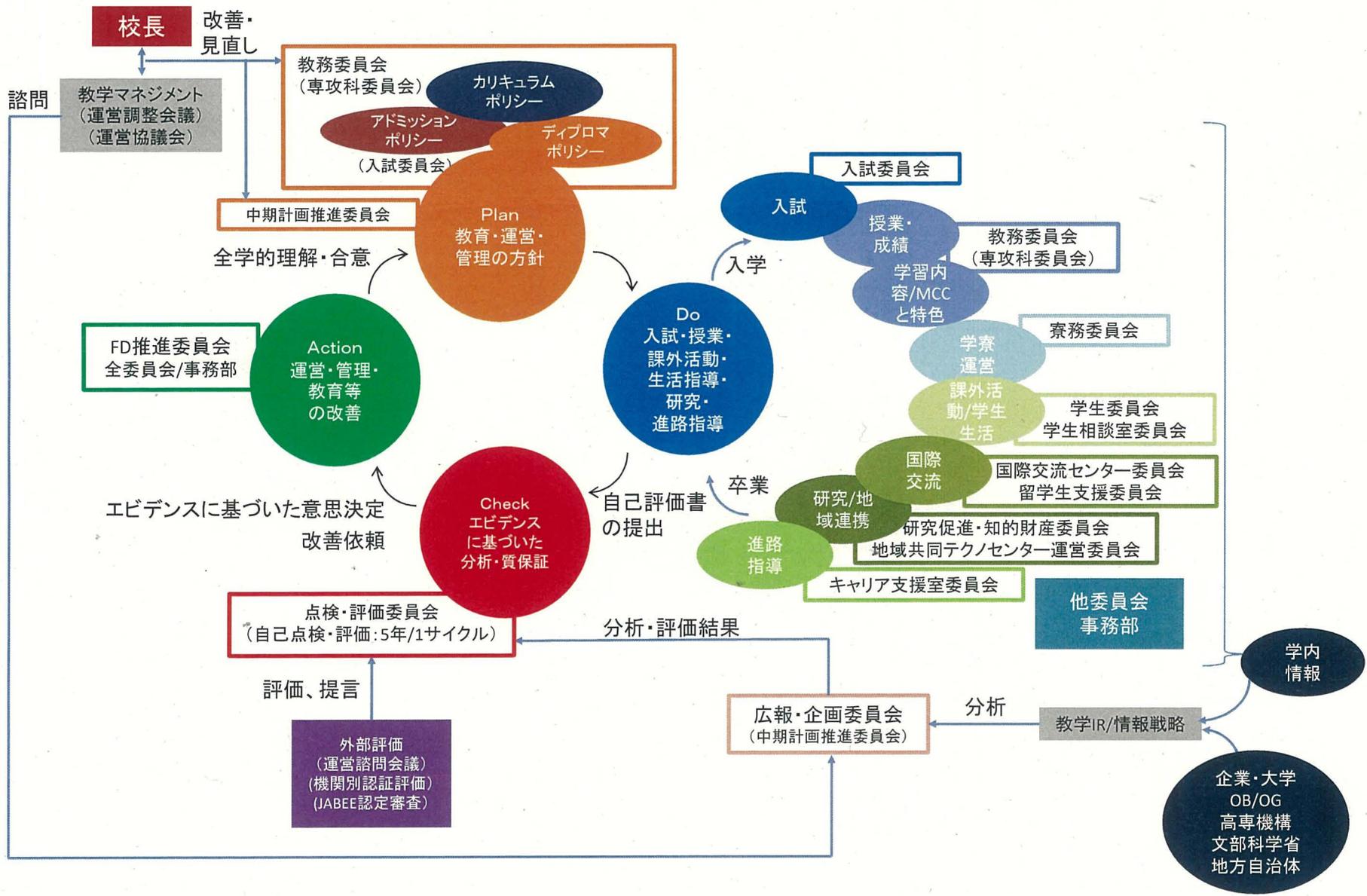
- 自己点検・評価に活用できるように体系的に整理する。体系的に整理するため、データブックの策定やIR(インスティテュショナルリサーチ)活動として検討する。
- 7年以内ごとに実施する機関別認証評価の自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※を行い、分析し、自己点検・評価に活用すること。
- ※「モニタリング」とは、学校が現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業のこと。
- 設定した5年1サイクルの年度計画の基準・項目に基づいて、点検(分析)・評価されていること。

アンケート名	自己点検 対応項目	計画書 年度計画の対応項目	収集の責任主体	収集頻度	実施方法	改善する点	今後、検討や 整備すべき内容
1 授業評価アンケート	①教育及び研究		FD委員会	全開講科目に対して、学期に1度	アンケートシステムを利用		
2 高専生活に関するアンケート	①教育及び研究	hyper-QUアンケート	教務委員会	1~3年生に対して、年度に1度	用紙に記入してもらう		
3 新入生アンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営		教務委員会	1年生に対して、年度に1度	web(MS-Forms)を利用		
4 いじめアンケート	①教育及び研究		学生委員会	1~5年生に対して、年度に2回(半期で1回ずつ)	用紙に記入してもらう		
5 企業アンケート	①教育及び研究		点検・評価委員会 キャリア支援室	求人であ校した企業に対して	web(MS-Forms)を利用		
6 大学・大学院教員アンケート	①教育及び研究		点検・評価委員会 キャリア支援室	大学説明であ校した大学教員に対して	web(MS-Forms)を利用		
7 在校生(準学士課程)に対するアンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		点検・評価委員会	在校生対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
8 在校生(専攻科課程)に対するアンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		点検・評価委員会	在校生対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
9 卒業生・修了生へのアンケート	卒業時における学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケート		点検・評価委員会 FD委員会	卒業・修了する学生対象、年に1度	web(MS-Forms)を利用		
10 保護者による授業参観・アンケート	授業公開・保護者アンケート		教務委員会	イベント毎に(年1回)	用紙に記入してもらう		
11 OB・OGへのアンケート	①教育及び研究		点検・評価委員会	卒業生対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
12 事務職員に対するアンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		点検・評価委員会	事務職員対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
13 技術職員に対するアンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		点検・評価委員会	技術職員対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
14 教員に対するアンケート	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		点検・評価委員会	教員対象、7年に1度程度	web(MS-Forms)を利用		
15 主任ヒアリング	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		校長/教務主事	学科・学系主任対象、年1回	資料・メモや口頭		
16 教員による自己評価	個人調査		校長/人事係	教員対象、年1回	電子データのテンプレート(Wordファイル)を利用		
17 教員による相互評価	教職員顕彰/規則3-21		校長/教務主事	教員対象、年1回	電子データのテンプレート(Wordファイル)を利用		
18 学生による教員の評価	教職員顕彰/規則3-21		校長/教務主事	学生対象、年1回	用紙に記入してもらう		
19 男女共同参画推進	男女共同参画推進委員会・男女共同参画推進室/規則2-25		男女共同参画推進委員会・男女共同参画推進室	女性教職員対象、年1回	資料・メモや口頭		
20 寮生保護者懇談会	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		寮務主事	寮生の保護者対象、年1回	会議上で口頭		
21 後援会総会	①教育及び研究 ②組織及び運営 ③施設及び設備		校長/副校長	後援会役員対象、年1回	会議上で口頭		
22 オープンキャンパス来場者アンケート	①教育及び研究		入試委員会	中学生対象、イベント毎に(年2回)	用紙に記入してもらう		
23 体験入学アンケート	①教育及び研究		入試委員会 学科主任	中学生対象、各学科のイベント毎に(年1回)	学科によって異なるweb(HTML)を利用など		
24 運営諮問会議	運営諮問会議/規則2-28		校長/副校長	外部有識者対象、年1回	資料・メモや口頭		

出典「令和2年 点検評価委員会 配布資料」

木更津工業高等専門学校 教学マネジメント 3ポリシーを起点とした学校教育のPDCAサイクル

令和2年2月19日
運営協議会承認



資料「PDCA補足説明」木更津工業高等専門学校 教学マネジメント

3ポリシーを起点とした学校教育のPDCAサイクルに関する補足説明

始めに、PDCAサイクル全体の連携体制や情報共有、各PDCAサイクルにおける各組織の役割について説明した。その後、1-8頁以降に関連規程（関係箇所のみ抜粋したもの）を示す。

【自己点検・評価における責任の所在/全体の取り纏め】

- (1) 校長を中心として、運営協議会・運営調整会議にて校長・副校長等が学校運営の全体を取り纏める。以下に記す各委員会の活動について、運営協議会で審議・報告し、情報共有や連携が行われる。
- (2) 外部評価や自己点検・評価に関しては、点検・評価委員会で基本方針並びに実施基準を定め、それに基づき実施する。PDCAサイクルを主体的に点検し運営する。

【Plan：運営計画】

- (1) 学校運営の計画や指針については、中期計画推進委員会において各部署から提出された年次計画の評価に基づいて次期中期計画案を策定し、中期計画に沿った年次計画案を策定する。そして各部署に依頼し、中期計画の実施状況の調査と評価に関することを取り纏める。
- (2) 教育に関する指針である学校の3ポリシーについては、教務委員会で審議し、適宜、修正・見直しを行う。なお、アドミッションポリシーについては、教務委員会と同じ教務主事が所掌する入試委員会において入試に関する調査結果を踏まえて教務委員会で審議する。
- (3) 自己点検・評価に基づいたActionの結果を点検・評価委員会が評価し、基本方針並びに実施基準や観点に対しての方針を取り纏める。

【Do：入試・教育活動・課外活動・生活指導・研究活動・進路指導】

- (1) 入試は入試委員会で対応する。中期計画・年度計画に基づき、オープンキャンパスや体験入学などのイベントの来場者アンケートや入学者の追跡調査を行い、入試広報や入試方法の改善などに取り組む
- (2) 授業や成績、学習内容については教務委員会（専攻科課程：専攻科委員会）が対応する。
- (3) 学寮の運営は寮務委員会で対応する。
- (4) 課外活動や学生生活全般は学生委員会で対応する。学生のメンタルヘルスに関する事項は学生相談室委員会が対応する。
- (5) 国際交流について、対外的な交流・短期留学は国際交流センター運営委員会、本学への留学生は留学生支援委員会で対応する。

(6) 研究活動および地域連携については、補助金などの申請・受入・知的財産については研究促進・知的財産委員会で対応する。産業界との共同研究・技術相談や公開講座などは、地域共同テクノセンター運営委員会で対応する。

(7) 進路指導における企業等との就職相談、インターンシップの派遣及び受入れについてはキャリア支援室委員会で対応する。

【Check：エビデンスに基づいた分析・質保証】

(1) 自己点検・評価に関しては、点検・評価委員会で5年間1サイクルとする全項目評価の実施計画を作成し、点検評価を実施する。そして、点検評価の結果を自己改善に繋げるためのシステムとしてこのPDCAサイクルを運用し、改善を継続的に推進する。運営諮問会議、機関別認証評価、JABEE認定審査等についても、自己点検・評価委員会が取り纏めて学校運営に反映する。

(2) 中期計画に基づいた自己点検・評価については、中期計画推進委員会が策定した年次計画の実施状況の調査と評価を行う。

(3) 運営諮問会議を年に1回以上開催し、教育研究上の質の向上、教育研究活動の評価・改善、業務運営の改善及び効率化等に関する重要事項について学外有識者による評価・提言を受ける。

(4) 広報・企画委員会は、運営協議会の諮問に応じて教育・研究・広報戦略等に関する課題について審議し、分析・評価結果を点検・評価委員会へ情報提供し、学校運営の改善に反映する。

【Action：運営・管理・教育等の改善】

(1) ファカルティ・ディベロップメント推進委員会は、教育プログラム、教員の授業技術及び教育活動、教育環境の点検評価と改善に関することを対応する。点検・評価委員会や中期計画推進委員会、外部評価からの改善依頼を受けて、主に教育活動全般の改善に対応する。

(2) その他の委員会等は、点検・評価委員会や中期計画推進委員会、外部評価からの改善依頼を受けて、学校運営の担当する箇所についての改善に対応する。

(3) 上記Actionに基づいて、中期計画推進委員会にて、中期計画案や年次計画案を策定する。点検・評価委員会は、基本方針並びに実施基準に沿って方針を取り纏め、次年度の点検項目に反映する。

【連携体制・情報共有の体制】

(1) 規則第14号により、副校長及び事務部長によって所掌する委員会が規定されており、副校長及び事務部長が運営協議会・運営調整会議のメンバーであるため、両会議を中心に情報共有が行われ、連携体制が整備されている。

(2) 同様に事務分掌も細則第2号として規定されており、各委員会を通じて事務部と教員との情報共有が行われ、連携体制が整備されている。

資料「木更津高専の3つの方針」(準学士課程 DP)

木更津工業高等専門学校の方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

準学士課程(本科)の方針

[3] ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

本校では、準学士の称号にふさわしい実践的・国際的エンジニアとして、以下に示す能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

本科共通

1. 自らの専門とする科学技術について基礎学力、基礎的な知識、関連する知識・技術、応用力を身につけて、それらを活用できる（応用的な問題の解決ができる）。
2. 修得した知識や技術をもとに各専門分野における問題発見、問題解決及びプレゼンテーションができる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

各学科のディプロマポリシー

本科共通に加えて

機械工学科

機械工学に関連する基礎学力、基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用して問題を解決できる。

電気電子工学科

電気電子工学分野における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、その知識・技術を応用する力を身につける。

電子制御工学科

制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを応用できる。

情報工学科

情報技術を身につけた人。

環境都市工学科

構造工学、建設材料学、地盤工学、水工学、衛生工学、生態学、測量学、情報処理技術に関する基礎的な知識、技術、応用力を身につけ、活用することができる。

出典「木更津高専の3つの方針」（一部抜粋）

資料「木更津高専の3つの方針」(準学士課程 CP)

木更津工業高等専門学校の三つの方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

準学士課程(本科)の三つの方針

[2] カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

木更津工業高等専門学校では、本校のディプロマポリシーに基づき、アドミッションポリシーに沿って入学した学生に対して以下のカリキュラムポリシーに則り教育を行います。

本科共通

1. 低学年では、数学、物理、化学などの理系教養科目、及び英語、国語、歴史などの文系教養科目を多く配置し、高学年では各専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成する。
2. 各専門科目について、基礎学力、基礎的な知識、関連する知識・技術、応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。
3. 自ら工夫して様々な課題に取り組み、社会に貢献できる総合的な能力を育成するために、アクティブラーニング、自主学習、実験・実習・課題研究・卒業研究を系統的に編成する。

各学科のカリキュラムポリシー

本科共通に加えて

機械工学科

力学、材料分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野を中心とした基礎的な機械工学に関連する幅広い知識や技術が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。

電気電子工学科

電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができるように授業科目を編成する。

電子制御工学科

創造的な技術開発ができる技術者を育成するため、制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識、技術と応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。

情報工学科

情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターネット技術・情報通信技術などの関連分野の知識を含めた、総合的な情報処理システムの知識が身につくように、授業科目を編成する。

環境都市工学科

自然科学、語学、文化、情報処理、測量学を基礎として、構造工学、建設材料学、地盤工学、水工学、衛生工学、生態学に関する専門科目を系統的に配置し、講義、演習、実験・実習、課題研究、卒業研究を組み合わせた授業を編成する。

学業の成績は、シラバスに基づき、科目担当教員が試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して100点法によって評価する。

【基準】

評定	評点	基準（到達レベル）
A	80点～100点	十分に満足できる到達レベル
B	70点～79点	標準的な到達レベル
C	60点～69点	単位取得可能な最低限の到達レベル
D	60点未満	単位取得不可の到達レベル

出典 「木更津高専の3つの方針」（一部抜粋）

資料「木更津高専の3つの方針」(準学士課程 AP)

木更津工業高等専門学校の三つの方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

準学士課程(本科)の三つの方針

[1] アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

以下に示す「求める学生像」に適した者を、「入学者選抜の基本方針」に沿って、国内外から広く受け入れます。

求める学生像(本科共通)

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術及び英語など外国語にも興味・関心がある人
2. 自ら考え、様々な課題に意欲を持って取り組む実行力を身に付けたい人
3. 社会のルールを尊重し、学業や課外活動、学校行事などの学生生活を積極的に送ろうとする人
4. コミュニケーション能力と協調性を有し、指導的立場に立つ技術者として社会の発展に貢献したい人

各学科の求める学生像

本科共通に加えて

機械工学科

機械工学に興味や関心があり、自ら考え、機械工学に関連するさまざまな課題に意欲を持って取り組みたい人

電気電子工学科

電気電子工学に強い興味をもち、学習意欲が旺盛である人

電子制御工学科

電子工作、機械工作、プログラミングなどのものづくりに興味があり、ロボット技術のように制御、電気電子、機械、情報処理などの技術を融合した知識を身につけたい人

情報工学科

計算機ハードウェア・ソフトウェア技術や情報通信技術に関心のある人

環境都市工学科

- ・自然と人とのかかわりに興味を持ち、自然環境の保全や防災についての理解を深めたい人
- ・社会に役立つ社会基盤施設の設計や建設について学びたい人

(*) 編入学者へのアドミッションポリシー

本校準学士課程への編入学者に関しては、上記のほかに以下のポリシーを設けます。

1. 高等学校において理数系または工学の基礎を習得した人、または教育機関等において同様の学力を獲得したと認められる人
2. 希望する学科の教育目標・教育課程を十分に理解し、社会のルールを尊重し、自主的・積極的に学業に取り組む姿勢を有する人

入学者選抜の基本方針

(1) 推薦選抜

出身中学校長が責任を持って推薦し、本校への入学意志が強い志願者のうち、「求める学生像」に適しリーダーとなりうる優れた者を、調査書及び推薦書等の提出資料並びに面接検査及び適性試験により総合的に選抜する。

(2) 学力選抜

「求める学生像」に適した者を、中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜する。学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とし、総合的に優れた志願者を受け入れる。

(3) 編入学選抜

編入学者選抜に関しては、出身教育機関の長などが責任を持って推薦した志願者のうち、本校教育に十分な基礎学力を有する者を受け入れる。

出典 「木更津高専の3つの方針」(一部抜粋)

資料「木更津高専の3つの方針」(専攻科課程 DP)

木更津工業高等専門学校の方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

専攻科の方針

[3] ディプロマポリシー (修了認定の方針)

木更津工業高等専門学校専攻科では、各分野の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養を有した、質の高い創造的・指導的・国際的エンジニアとして、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学士認定資格を満たし、以下の能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。

1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。
2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。
3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。

出典「木更津高専の3つの方針」(一部抜粋)

資料「木更津高専の3つの方針」(専攻科課程 CP)

木更津工業高等専門学校の方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

専攻科の方針

[2] カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 高専本科で修得した各専門の学力を基礎とし、異なる技術分野を理解して、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、異なる技術分野の基礎科目、技術倫理、環境工学などの共通科目を編成する。
2. PBL教育やインターンシップを実施し、専門が異なる他者と協働することで広い視野とコミュニケーション能力を養成する。
3. 高専本科で修得した各専門について、より専門的な科目を編成し、各専門分野での高度な技術に関する理解を深める。
4. 特別実験と特別研究を系統的に編成し、問題発見、問題解決能力を有した研究開発型技術者を育成する。

学業の成績は、シラバスに基づき、科目担当教員が試験の成績、レポート等を考慮して100点法によって評価する。

【基準】

評定	評点	基準 (到達レベル)
A	80点～100点	十分に満足できる到達レベル
B	70点～79点	標準的な到達レベル
C	60点～69点	単位取得可能な最低限の到達レベル
D	60点未満	単位取得不可の到達レベル

出典「木更津高専の3つの方針」(一部抜粋)

資料「木更津高専の3つの方針」(専攻科課程AP)」

木更津工業高等専門学校の三つの方針

本校の目指すところ

木更津工業高等専門学校では、幅広い教養を基本とし、国際的視野を持ち、自ら考え決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自らの信念に基づき困難にも屈せず遂行する実行力の三つの能力を備えた創造的エンジニアとしての人材の養成を目指します。あわせて、健康な身体と精神、豊かな情操を培い、各専門の科学技術発展と成果の基礎となる理論を十分に理解して、社会に貢献でき、広範囲に活躍する実践的技術者の育成教育に努めます。本校ではこれらの目標の実現のために次の三つの方針を掲げます。

専攻科の三つの方針

[1] アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

木更津工業高等専門学校の特攻科では、以下に示す「求める学生像」に適した者を、「入学者選抜の基本方針」に沿って、国内外から広く受け入れます。

求める学生像

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人
3. より高度な技術課題と先端的な理工学研究課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して我が国や国際社会に貢献する意欲を持った人

入学者選抜の基本方針

(1)推薦選抜

出身高等専門学校等の長が責任を持って推薦し、本専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、「求める学生像」に適し優れた者を、面接検査と調査書により総合的に判断して受け入れる。

(2)学力選抜

「求める学生像」に適した者を、学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算）、数学、専門科目）と調査書及び面接検査（専門科目に関する口頭試問含む）の結果により総合して受け入れる。

(3)社会人特別選抜

企業などにおいて一定以上の在職期間を有し、一定水準以上の基礎学力を身につけ、かつ主体的・継続的な学習意欲とコミュニケーション能力を有し、本専攻科への入学意志が強い志願者を受け入れる。

出典 「木更津高専の3つの方針」（一部抜粋）

第3章 学科、学級数、入学定員、学科の目的及び教職員組織

(学科、学級数及び入学定員)

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
情報工学科	1	40人
環境都市工学科	1	40人

2 校長は、教育上有益と認めるときに、前項の規定にかかわらず、異なる学科の学生をもって学級を編制することができる。

(学科の目的)

第7条の2 各学科の目的は、次のとおりとする。

- (1) 機械工学科は、材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。
- (2) 電気電子工学科は、電子、情報通信、コンピュータ、材料、計測、制御、電気機器、エネルギーなど、高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊で次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。
- (3) 電子制御工学科は、制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。
- (4) 情報工学科は、情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターフェース技術、情報通信技術、制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。
- (5) 環境都市工学科は、構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

(職員の種類)

出典「木更津工業高等専門学校学則 昭和43年6月1日 学則第1号(抜粋)」

第 7 章 専攻科

(設置)

第 36 条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第 37 条 専攻科は、高等専門学校基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(修業年限及び在学年限)

第 38 条 専攻科の修業年限は、2 年とする。ただし、4 年を超えて在学することはできない。

(専攻及び入学定員)

第 39 条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械・電子システム工学専攻 制	8 人
御・情報システム工学専攻 環境	8 人
建設工学専攻	4 人

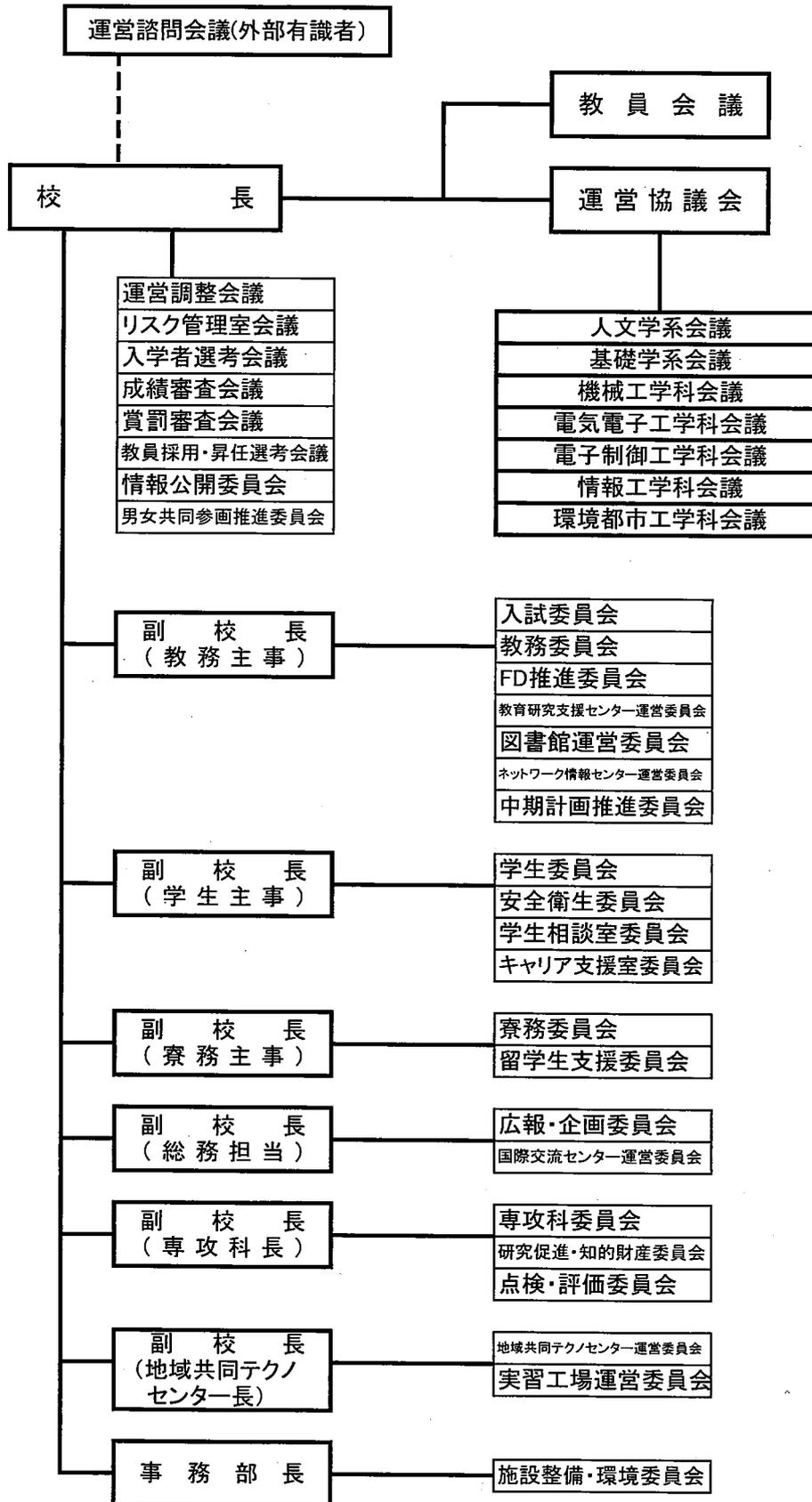
(専攻の目的)

第 39 条の 2 各専攻の目的は次のとおりとする。

- (1) 機械・電子システム工学専攻は、機械工学と電気電子工学のそれぞれの分野の高い技術力と両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。
- (2) 制御・情報システム工学専攻は、情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造力、実践的な制御システムに対応できる技術者を育成することを目的とする。
- (3) 環境建設工学専攻は、社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。

出典「木更津工業高等専門学校学則 昭和 43 年 6 月 1 日 学則第 1 号 (抜粋)」

1. ガバナンス体制



資料「高等専門学校設置基準」

- 第六条 高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。
- 2 教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。
- 一 入学定員に係る学生を一の学級に編制する場合は、十人
 - 二 入学定員に係る学生を二の学級に編制する場合は、十二人
 - 三 入学定員に係る学生を三の学級に編制する場合は、十四人
 - 四 入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数
 - 五 入学定員に係る学生を七以上の学級に編制する場合は、二十六人に六学級を超えて一学級を増すごとに三人を加えた数
- 3 教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。
- 4 工学に関する学科以外の学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、別に定める。
- 5 高等専門学校は、教育の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制するものとする。
- 6 高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。
- 第七条 高等専門学校は、演習、実験、実習又は実技を伴う授業科目については、なるべく助手に補助させるものとする。
- 第八条 専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならない。
- 第九条 教員は、一の高等専門学校に限り、専任教員となるものとする。
- 2 専任教員は、専ら前項の高等専門学校における教育に従事するものとする。
 - 3 前項の規定にかかわらず、高等専門学校は、教育上特に必要があり、かつ、当該高等専門学校における教育の遂行に支障がないと認められる場合には、当該高等専門学校における教育以外の業務に従事する者を、当該高等専門学校の専任教員とすることができる。

資料「教員の年齢別構成がわかる資料」

教員の年齢構成・男女別人数・博士号、教育・実務経験の状況

令和2年4月1日現在

	年齢階層別教員数						男女別教員数			博士号取得者数		教育経験 有り	実務経験 有り	教育と実 務経験有 り	教育又は 実務経験 ありの割 合
	60歳 代	50歳 代	40歳 代	30歳 代	20歳 代	平均	男	女	計	博士号 取得数	取得率				
人文学系	2	5	4	2	0	49.6	10	3	13	3	23.1%	7			53.4%
基礎学系	0	4	3	4	1	43.3	10	2	12	11	91.7%	2			16.7%
一般学系全体	2	9	7	6	1	46.6	20	5	25	14	56.0%	9			36.0%
機械工学科	1	3	4	1	0	49.2	9	0	9	9	100.0%	1	5		66.7%
電気電子工学科	2	2	3	2	1	45.7	9	1	10	9	90.0%	1	3		40.0%
電子制御工学科	1	2	4	2	0	46.4	9	0	9	8	88.9%	2	3		55.6%
情報工学科	1	3	5	1	0	47.6	9	1	10	10	100.0%	1	3	1	50.0%
環境都市工学科	1	2	4	3	0	44.9	10	0	10	10	100.0%	2	5		70.0%
専門学科全体	6	12	20	9	1	46.7	46	2	48	46	95.8%	7	16	1	50.0%
その他		1				58	1		1	1	100.0%		1		100.0%
総合計	8	22	27	15	2	47.5	67	7	74	61	82.4%	16	17		44.6%
	11.0%	30.0%	36.5%	20.2%	2.74%										

出典「教員の年齢構成・男女別人数・博士号、教育・実務経験の状況」

教員の自己申告書

令和 年 月 日現在

氏名・職名	(氏名)	(所属学科・学系)	(職名)
今年度の学内役職			
1 専門分野の教育 2 担任・校務分掌 3 学生指導 4 課外活動指導の実績と成果、今後の取り組み 5 国際化教育 6 若手教員の育成指導（教授・准教授のみ） 7 教育向上・研究活動 8 地域連携・社会貢献 9 学校運営、今後の学校のあり方について 10 特例専攻科における現況及び対策について			

教員の自己申告書（記載例）

各事項に関する自身の考え方と活動実績を記載するよう求められる。各事項の標準的な記載内容を示す。

1 専門分野の教育

自身の専門分野。今年度の担当授業科目、これまでの担当実績。
一般（専門）教育における指導方針。教室での授業の進め方。補講等への取り組み。
授業改善、自己啓発についての考え。
今年度の一般特別研究生・卒業研究生・専攻科生の指導人数。

2 担任・校務分掌

担任、主事補、委員の担当状況、担当分野。特記すべき実績（あれば）。

3 学生指導

担任を務めるときに心がけていること。寮生との接し方。特別な指導を必要とする学生への接し方。保護者との連携。その他教室外での学生の人間教育（日常的な学生指導）に対する取り組み方。これまでの実績。今後の活動。

4 課外活動指導

課外活動の顧問としての指導と実績及びその成果、これからの方針。

5 国際化教育

国際化教育（グローバル人材育成）についての考え、取り組み状況と実績。今後の活動。

6 若手教員の育成指導（教授・准教授のみ）

若手教員の育成指導（若手教員の手本となること）についての考え、取り組み状況。

7 教育向上・研究活動

自身の研究分野。これまでの研究内容。今後の研究計画と将来への抱負。
在外・内地研究員、教材開発・教科書執筆、FD活動、学会所属、成果発表、科研費獲得、共同研究、研究上の受賞歴、その他特記すべき事項。
なお、今後、教科書等教材を作成する可能性がある場合には、作成可能年度、教科書等の予定題目と共著者名を記載。また、成果発表として、投稿予定の論文がある場合には、論文内容・題目候補名・投稿先・時期・予想連名者を記載。
研究業績リスト（別紙に記載）。

8 地域連携・社会貢献

地域連携・社会貢献についての考え、取り組み状況。今後の活動。
国や地方の審議会委員、その他特記すべき事項。

9 学校運営、今後の学校のあり方について

学校運営で心がけていること、これまでに行った具体的な貢献。学校運営で特に活躍したいと思う領域・分野。
高等専門学校のあるいは将来のあるべき姿についての考え。
木更津高専を発展させるために重要と考えること。

10 特例専攻科における現況及び対策について

特例専攻科審査における現在の状況と今後の対策について
適・不適・条件付きを記載。不適・条件付きの場合には満たすための具体的対応とその実績を記載。該当なしの者についても、今後の関与希望等を記載。

(別紙)

研究業績

○様式は任意。

○各業績について、表題、著者名、発表年月日、発行所・発表雑誌名、ページ範囲等を明記。(リサーチマップからのデータ利用を推奨いたします。その場合には、項目省略も可)

○概要は必要に応じて記載する。

(特に重要なもの、表題からは内容が判別しがたいものなど)

○各業績が、以下のいずれに該当するか、明確に区分すること。

a) 著書 (単著)

b) 著書 (共著)

c) 学術雑誌に掲載された論文 (査読なし)

d) 学術雑誌に掲載された論文 (査読あり)

e) 研究紀要に掲載された論文

f) 国際会議での講演・口頭発表に伴う論文

g) 学会等での講演・口頭発表に伴う論文

h) 学位論文

i) 学生との共著論文

j) 工学教育・高専教育に関する論文

k) その他の業績 (特許出願等)

} i) 及び j) は、c) ~g) と重複して区分される。

○直近5年間に発表したものを中心に記載し、それ以前のは適宜省略してよい。

令和元年度 木更津工業高等専門学校_厚生補導研究会プログラム

日 時： 令和元年9月20日(金) 9時00分～17時00分

研修会場： 木更津工業高等専門学校 第1講義室 他

9		10		11		12		13		15		16		17	
00	10	40	10	20	00	10	00	00		30	00			00	
① 開講挨拶・趣旨説明		② 基調報告 1	③ 基調報告 2	(休憩)	④ 基調報告 3	(休憩)	⑤ 基調報告 4	(昼食)	⑥ 別 議		別 議	別 議	別 議	別 議	⑦ 閉講挨拶 (別 議 発表)

① 開講挨拶 (校長) ・趣旨説明 (教務主事)

② 基調報告 1： 『『技術者入門とプロジェクト実習の協働教育』の実施状況』

③ 基調報告 2： 『課題学習時間の現状報告』

④ 基調報告 3：

1) 『セキュリティ教育(K-SEC)の実施報告』

2) 『KOSEN4.0 (国際コラボレーション)』

⑤ 基調報告 4：

1) 『危機管理テーブル訓練の事例報告』

2) 『木更津高専寮生の生活面・設備等に対する意識調査と分析結果に関する一考察』

⑥ 別 議

テーマ 1： 課題学習時間について

テーマ 2： 教育プロジェクト等の教育資源を生かした教育方法について

テーマ 3： 成績不振、原級留置学生の対策について

⑦ 閉講挨拶 (教務主事)

出典「令和元年度木更津工業高等専門学校厚生補導研究会プログラム」

令和元年5月22日

教科主任、学科主任 各位

FD 推進委員会

委員長 [REDACTED]

令和元（2019）年度「教科と学科の情報交換会」の実施について（依頼）

FD活動の一環として、従来から実施しております表題の懇談会を本年度も実施します。つきましては以下の実施予定表を参照のうえ、各教科・各学科間にて日程を調整され、実施していただきますようお願い致します。

教科／学科	M 科	E 科	D 科	J 科	C 科
数学	2022 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
物理・化学	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2018 年度
英語・ドイツ語	2021 年度	2022 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
国語・社会	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2018 年度	2019 年度
体育	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度

なお、実施に際しては必ず議事要旨を作成し、実施期間内にFD推進委員長までお送りいただきますようお願い致します。参考までに昨年までの情報交換会に関する議事要旨が教職員ローカルウェブサイトに掲載されております（メニュー > FD > キャビネット > 教科と学科の情報交換会）。

情報交換会の内容につきましては、基本的に各教科・各学科の裁量にお任せ致します。ただし、以下の観点を必ず含んでいただきますようお願い致します。

- 低学年教育（学生の学力状況や授業態度等）
- 新カリキュラムにおける一般科目と専門科目の関連内容の確認
- 一般科目と専門科目の授業進捗の確認

本件に関して不明な点がございましたら、FD推進委員長までお問い合わせ願います。

以上

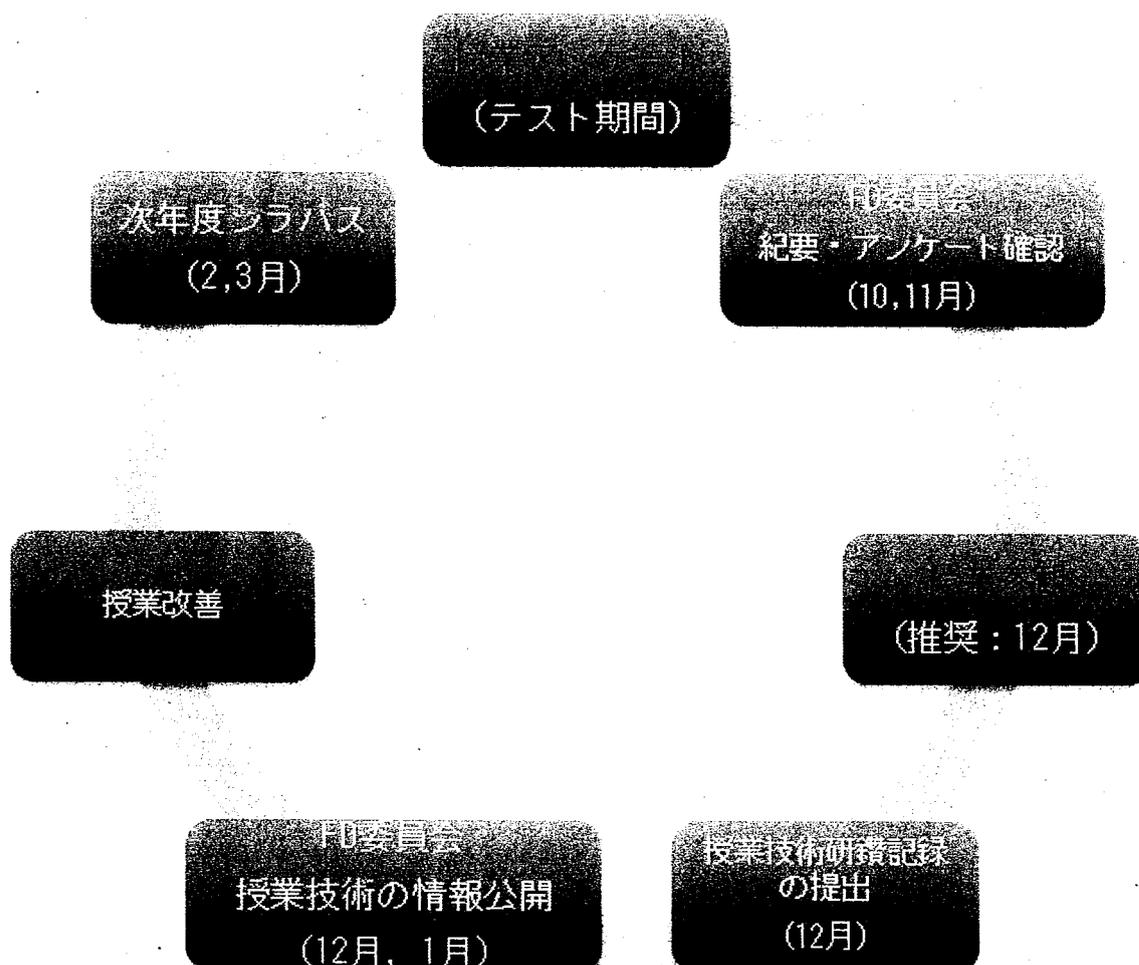
出典「令和元年度教科と学科の情報交換会の実施について（依頼）」

FD 委員会資料 (H27.11.17)

学生アンケートと授業参観を利用した授業技術研鑽による FD 活動

本校での FD 活動において、FD 活動の抜本的な改善が重要課題として位置づけられている。そこで、従来から実施している授業アンケートと授業参観を利用した授業技術の研鑽活動を以下のシステムに則って全学的に実施することで FD 活動の活性化を目指す。

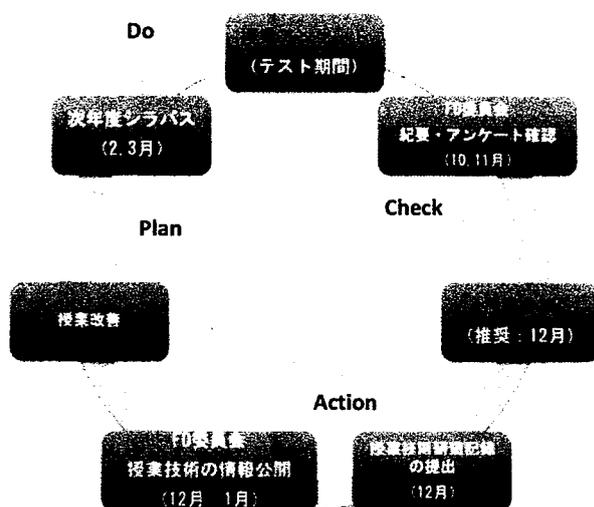
【FD システム案】



- ・ 授業アンケート …高評価の授業の把握 → 参観推奨授業の提案 (FD 委員会)
- ・ 授業参観 …数年に一回は各教員が参観する計画 → 授業技術研鑽記録
- ・ 授業技術研鑽記録…特筆すべき授業技術を全学的に紹介 → 各授業の改善
- ・ 次年度シラバスへ反映
 - 改善案を取り入れた授業実施記録 → 紀要へ公表 (別紙: 教育改善の「見える化」による FD 活動の活性化と教育高度化の一提案)

主なFD活動の流れ（授業編）

前期	後期	FD活動内容	概要
4月初旬	9月	手引の参照と計画の策定	「授業担当者の手引」を参照し、授業計画を策定
4月初旬		卒業研究記録	5年へ卒業研究記録を配布し、適切な記入を指導する（3月に回収）
5月下旬	11月中旬	授業評価アンケートの設定	中間試験で実施する科目においてWebキャリアカルテ（WCA） (http://wca.kisarazu.ac.jp:8180/WCA/)でアンケート項目を設定する
6月 中間試験	11月～12月 中間試験	授業評価アンケートの実施	リストに基づき授業評価アンケートをWebキャリアカルテで実施する ※5年は実施時間を設けないので、適宜、実施するように指導する
	アンケート実施後	参観推奨科目の検討（FD）	アンケートに基づき参観推奨科目を検討して教員へ周知する（FD委員）
6月下旬	12月中旬	授業公開特別期間	適宜、参観して授業スキルの向上に努める ※報告書の記入・提出 （1名以上の参観者（年度内）を学科・学系で選定）
7月中旬	1月下旬	授業評価アンケートの設定	定期試験で実施する科目においてWebキャリアカルテ（WCA） (http://wca.kisarazu.ac.jp:8180/WCA/)でアンケート項目を設定する
7月～8月 定期試験	2月 定期試験	授業評価アンケートの実施 （*後期定期試験は予備）	リストに基づき授業評価アンケートをWebキャリアカルテで実施する ※5年は実施時間を設けないので、適宜、実施するように指導する
	12月下旬	参観報告書の周知（FD）	参加者から報告書を取りまとめ、その内容を教員へ周知する（FD委員）
～10月上旬	～3月上旬	授業実施記録の保存	Webキャリアカルテ(http://wca.kisarazu.ac.jp:8180/WCA/)に資料保存 ※卒業研究記録は事後シラバス
	～3月下旬	手引の改訂	報告書等の結果をまとめ手引を改訂する。



- ✓ 授業評価アンケート
高評価の授業の把握 → 参観推奨授業の提案（FD委員会）
- ✓ 授業参観
数年に一回は各教員が参観する計画 → 授業技術研鑽記録（報告書）
- ✓ 授業技術研鑽記録の集計（FD委員会）
特筆すべき授業技術を全学的に紹介 → 各授業の改善事例の伝達
- ✓ 次年度計画
「授業担当者の手引」や「シラバス」 → 各教員による反映

出典「学生アンケートと授業参観を利用した授業技術研鑽によるFD活動」
「FD活動の流れ」

校長
副校長 教務主事
副校長 学生主事
副校長 寮務主事
副校長 総務担当
副校長 専攻科長
副校長 地域共同テクノセンター長

機械工学科
電気電子工学科
電子制御工学科
情報工学科
環境都市工学科
人文学系
基礎学系
専攻科
地域共同テクノセンター
図書館
ネットワーク情報センター
実習工場
国際交流センター
学生相談室
男女共同参画推進室
キャリア支援室

機械・電子
システム工学専攻

制御・情報
システム工学専攻

環境建設工学専攻

事務部
教育研究支援センター

総務課
学生課
第一技術班
第二技術班

総務係
人事・労務係
研究協力・地域連携係
図書・情報係
予算管理係
経理係
施設係
教務係
学生係
学寮・保健係
実習部門
機械・電子部門
制御・情報部門
環境建設部門

総務・企画担当

財務担当

資料「教育支援者によるFD関連の研修の実施状況がわかる資料」

教育研究支援センター 技術教育研究セミナー

平成27年度（第36回）から令和元年度（第44回）まで

開催年月日	テーマおよび講演内容	講演者・発表者	参加者数
第36回 平成27年 6月11日	<input type="checkbox"/> 平成26年度科学研究補助金奨励研究報告 <input type="checkbox"/> ◇DHS法を用いた酸性鉱山廃水処理技術の開発 <input type="checkbox"/> ◇感性伝達人工物のネットワーク機能と視線操作評価 <input type="checkbox"/> ◇垂下特性を活用した、アーク長表示装置の製作 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学生向け公開講座コンテンツ <input checked="" type="checkbox"/> ◆袋ロケットを飛ばそう <input checked="" type="checkbox"/> ◆真空成型技術を用いたスピーカーの製作	 	22名
第37回 平成27年 11月27日	<input type="checkbox"/> 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）報告 <input type="checkbox"/> 関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会（情報系）報告 <input type="checkbox"/> 第14回関東信越地区技術長等会議報告 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学生向け公開講座コンテンツ <input checked="" type="checkbox"/> ◆電子ホテル・安全ホテル	 	24名
第38回 平成28年 6月14日	<input type="checkbox"/> 平成26年度科学研究補助金奨励研究報告 <input type="checkbox"/> ◇微小機器での活用をめざしたねじ歯車の潤滑方法と負荷特性 <input type="checkbox"/> ◇ボール盤作業感覚の数値化と安全 <input checked="" type="checkbox"/> 講演 教育研究支援センター長の就任にあたり	 (教育研究支援センター長)	22名
第39回 平成28年 12月1日	<input type="checkbox"/> 平成27年度 実験・実習技術研究会 in 西京報告 <input type="checkbox"/> 関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会（物質系）報告 <input type="checkbox"/> 島津製作所 新技術セミナー2016 in 千葉報告 <input type="checkbox"/> 第15回関東信越地区技術長等会議報告	 	20名
第40回 平成29年 6月9日	<input checked="" type="checkbox"/> 講演 技術長就任挨拶 「教育研究支援センターの歩みから見える”アタマのイイ高専”とは」 <input type="checkbox"/> 平成28年度科学研究費助成事業報告および総合技術研究会報告 <input type="checkbox"/> ◇総合技術研究会2017 東京大学参加報告 <input type="checkbox"/> ◇感性伝達人工物の安価な相互視線操作システムの構築 <input type="checkbox"/> ◇五感を活用して「旋盤作業の安全」を学べる教育支援シミュレータの開発 <input type="checkbox"/> ◇砂型鑄造の転圧感覚の数値化と可視化 <input checked="" type="checkbox"/> 講演 「時計よもやま話」	 (元シチズン時計株式会社・時計開発本部 ME 開発部)	41名
第41回 平成30年 2月2日	<input type="checkbox"/> 平成29年度関東信越地区国立高等専門学校 技術職員研修会参加報告 <input type="checkbox"/> 平成29年度三機関連携グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)参加報告 <input type="checkbox"/> 平成29年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会参加報告 <input checked="" type="checkbox"/> 講演 木更津高専の思い出 (退職講演)	 	20名
第42回 平成30年	<input type="checkbox"/> 平成29年度奨励研究報告および研究発表会・技術研究会参加報告		20名

6月14日	◇ものづくり実習環境における粉じん濃度の現状と改善 ◇神経難病患者のためのバーチャルリアリティ相互ケアシステムの開発 ◇第9回高専技術教育研究発表会in舞鶴 参加報告 ◇2017年度信州大学実験実習技術研究会 参加報告 ■講演 「私が過労死しなかった理由～専門職のための感情モニタリング入門」	[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]	
第43回 平成30年 11月28日	<input type="checkbox"/> 平成30年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会報告 <input type="checkbox"/> 平成30年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会報告 <input type="checkbox"/> 「化学安全スクーリング2018-化学実験室における安全管理指導者の育成-」講座より安全について学んだことあれこれ ■技術学習会「サンドブラストアート」 会場：実習工場	[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]	21名
第44回 令和元年9月18日	<input type="checkbox"/> 平成30年度科学研究費助成事業（奨励研究）報告 「神経難病患者のための表情投影型感性伝達人工物の開発」 <input type="checkbox"/> 総合技術研究会2019九州大学報告 <input type="checkbox"/> 令和元年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会報告 ■講演 「HDD配線材料の製造方法と製造業のしくみ」 ■技術学習会「製作実習内容の紹介とこまの製作」 会場：実習工場	[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]	21名

高専技術教育研究発表会 第6回（平成27年度）から第10回（平成30年度）まで

回 【開催校】	開催日	参加高専名（ ）は参加キャンパス数	参加者数(学内参加者数)	主な内容
第6回 【木更津高専】	H.27.3.5 ～6	釧路、秋田、仙台(名取)、鶴岡、小山、群馬、長岡、長野、沼津 豊田、富山(本郷)、富山(射水)、石川、奈良、和歌山、舞鶴 明石、津山、松江、大分、木更津 (21キャンパス)	62名 (19名)	紀聖治高専機構理事が参加 口頭発表29件、ポスター発表9件
第7回 【木更津高専】	H.28.3.8 ～9	一関、仙台(名取)、仙台(広瀬)、秋田、鶴岡、小山、群馬、長岡 富山(本郷)、富山(射水)、石川、福井、沼津、豊田、舞鶴、明石 奈良、和歌山、松江、津山、阿南、新居浜、木更津 (23キャンパス)	61名 (19名)	紀聖治高専機構理事が参加 口頭発表20件、ポスター発表15件 情報交換会を本校学生食堂で開催
第8回 【木更津高専】	H.29.3.2 ～3	函館、苫小牧、一関、仙台(広瀬)、秋田、鶴岡、福島、小山 群馬、長岡、石川、福井、長野、豊田、舞鶴、明石、松江 阿南、金沢、木更津 (20キャンパス)	53名 (18名)	谷口功高専機構理事長が参加 口頭発表22件、ポスター発表8件 情報交換会を本校学生食堂で開催
第9回 【舞鶴高専】	H.30.3.11 ～12	函館、苫小牧、八戸、一関、秋田、鶴岡、群馬、長岡、長野 沼津、豊田、鈴鹿、富山(本郷)、石川、金沢、福井、奈良、和歌山 舞鶴、明石、津山、松江、阿南、新居浜、有明、沖縄、木更津	74名 (5名)	舞鶴高専で開催 木更津高専以外では、初めての開催 谷口功高専機構理事長が参加 口頭発表35件、ポスター発表16件

		(27 キャンパス)		
第10回 【木更 津高専】	H31.3.4 ～5	函館、苫小牧、釧路、旭川、秋田、鶴岡、小山、群馬、長岡、長野、沼津、豊田、岐阜、富山(本郷)、富山(射水)、石川、福井、鈴鹿、舞鶴、和歌山、明石、津山、徳山、阿南、香川(詫間)、久留米、有明、木更津 (28 キャンパス)	65名 (22名)	安藤真高専機構理事が参加 口頭発表 30 件、ポスター発表 14 件

出典「教育研究支援センター資料」

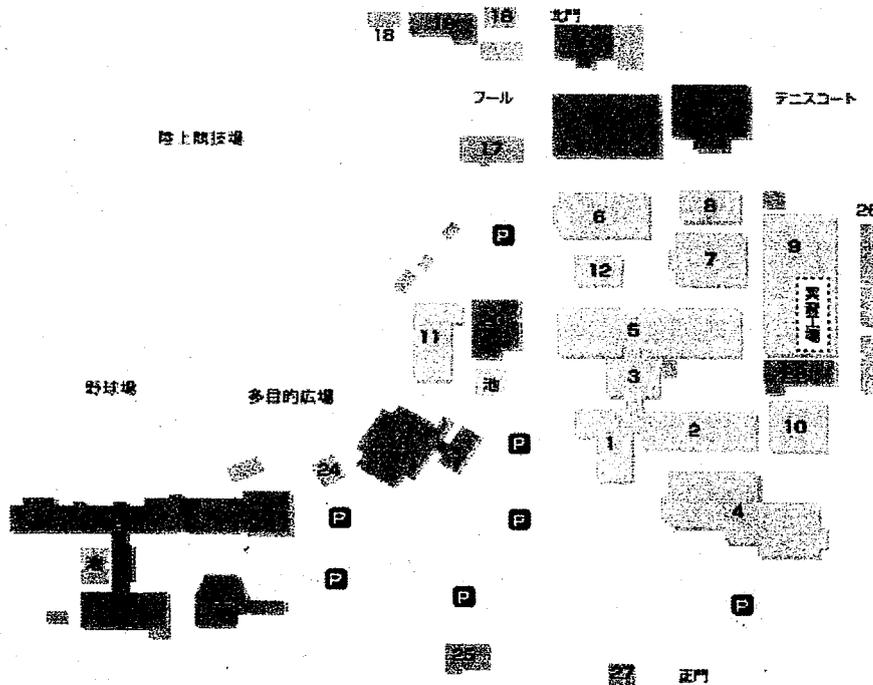
資料「校地面積、校舎面積、運動場などの施設配置に関する資料」

施設の概要

校地 College Area		職員住宅 Staff Housing		総面積 Land Area
満見台キャンパス	面積	高砂		
100,054㎡	1,738㎡	2,760㎡	104,550㎡	

平成31年4月1日現在

配置図



建物

■ 教育研究施設 ■ 学生向け施設 ■ その他管理施設

1 管理棟	R-2			第2体育館	S-1	880㎡	S58
2 第一研究棟	R-2-1	4,090㎡	S42	武道場	S-1	311㎡	S44
3 科学実験棟	R-2			課外活動棟	S-1	205㎡	S52-S53
4 総合教育棟	R-4	3,522㎡	H15	学友会館	R-2	702㎡	S55
5 第1研究棟	R-4	4,091㎡	S43-S44	学 家(第 1 号棟)	R-4-1	6,233㎡	S42-S43-S62
6 第2研究棟	R-4	2,200㎡	S59	学 家(2号棟)	R-4-1	1,099㎡	H12
7 第3研究棟	R-5	2,183㎡	H4	ものづくり工房	S-1	102㎡	S50
8 地域共同ワークセンター	R-2	414㎡	H12	プール附属施設	R-1	258㎡	H6
9 実験実習棟	S-1	1,561㎡	S43-S44	体育館附属	R-1	58㎡	S45
10 講義棟A	R-2	717㎡	S63	生活科実習棟	R-1	30㎡	S54
11 講義棟B	R-1	398㎡	S42	倉庫	S-1	112㎡	S44
12 講義棟C	R-1	302㎡	S50	倉庫	B-1	479㎡	S45-S50
13 国際ネットワークセンター棟	R-3	1,771㎡	S51	門衛所	S-1	24㎡	H16
第1体育館	S-1	1,152㎡	S43	計		32,895㎡	

R=新築/増築 R2=改築 S=体育館 B=プロテクト

National Institute of Technology (NIO/NIT) Tokanaka College [41]

資料「キャンパスネットワークの整備状況と利用可能PC台数」

図書・ネットワークセンター棟

書籍とデジタル情報メディアの有機的統合を図るため、図書館の建屋にネットワーク情報センターを移設して統合し、2013年4月よりリニューアルオープンしました。耐震強度の確保、事務省力化、省エネルギーも達成しました。創造性豊かなものづくり力の育成、理系の枠をも超えた感性の育成、情報リポジトリの構築への展開が期待されています。



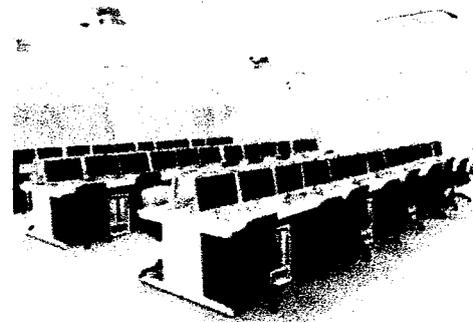
ネットワーク情報センター

ネットワーク情報センターは校内全体に張り巡らされたキャンパスネットワーク、教育用コンピュータシステムを運用し、さまざまな情報サービスを提供しています。

キャンパスネットワークは、校内の約1000台のコンピュータを1ギガビット 秒以上の高速ネットワークで接続しています。本校ネットワークは1ギガビット 秒で学術情報ネットワークに接続され、インターネットにつながっています。

コンピュータ実習室(図書・ネットワークセンター棟1階)と特別教室(講義棟A)にそれぞれ49台のPCが設置され、プログラミング演習、専門科目、外国語等の授業や研究で活用されています。実習室は平日8時40分から19時45分まで開放され、放課後の自学自習等に利用できます。さらに土曜日12時10分から16時45分まで、インターネット・マルチメディアルームで実習室と同じPC環境が使えます。

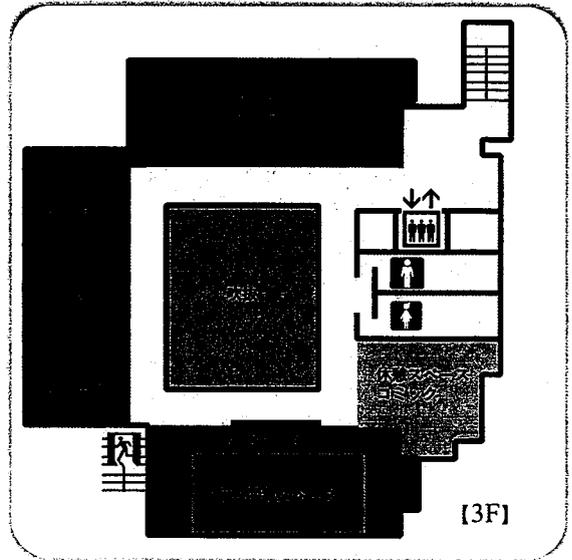
ネットワーク情報センターのサービスは、10台を超えるサーバコンピュータによって支えられています。



出典「学校要覧 2019」

図書館の常識・非常識

- ほかの利用者に迷惑をかけない。これがすべての基本です。
- フリー閲覧スペース、グループ学習室およびインターネットマルチメディア室を除き、館内では静粛にお願いします。
- 食事および喫煙はすべての場所で禁じられていますが、フリー閲覧スペースおよびグループ学習室は、水分補給のための飲料水等の摂取を認めています。
- 図書や備品などを大切に扱ってください。汚損や紛失があれば弁償していただきます。
- 図書などを無断で館外に持ち出すのは犯罪です。厳正に対処します。
- 借りた図書を別の人に貸してはいけません。

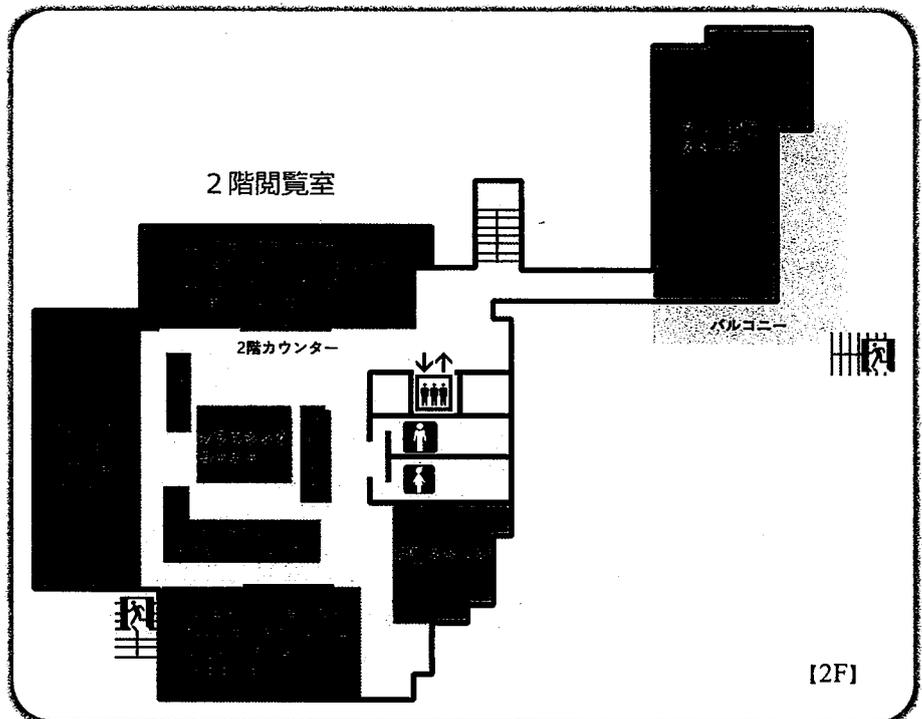


図書のリクエスト

図書館で購入してほしい図書、DVDソフトなどがあれば、1Fカウンター及び2Fカウンターにある「図書購入希望申込書」に記入し、提出してください。

学外の方へ

中学生以上であれば、学外の方も2階閲覧室はご利用いただけます。初めてご利用になる際には、身分を証明できるもの(免許証・健康保険証など)をお持ちください。

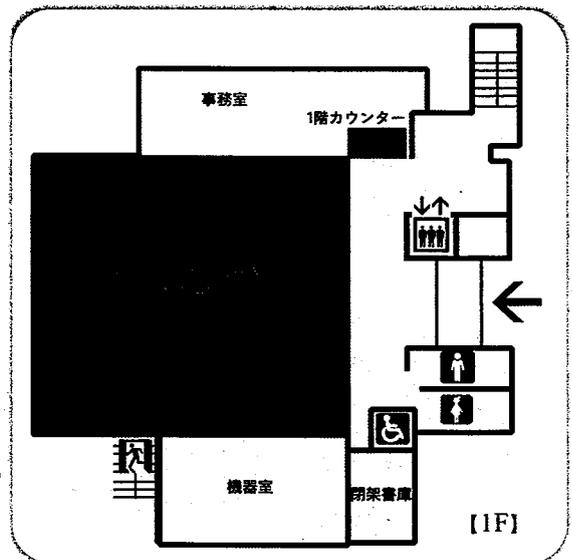


蔵書検索

図書の所在を調べたいときは、2階カウンターにある「蔵書検索用パソコン」を使います。求める図書が見つかったら保管場所が図書館であることを確認し、分類記号により配架場所を確認します。

蔵書検索は学内のパソコンからもできます。図書館のホームページにアクセスし、「蔵書検索 OPAC」を選んでください。

なお、検索した結果、求める図書が貸出中の場合は予約することができます。予約した図書が返却されしだい、電子掲示板に予約者の氏名を表示します。



簡易検索 詳細検索

検索条件

AND

AND

並び順: 関連度

一覧表示件数: 20

資料区分

- 図書
- 和図書
- 洋図書
- 雑誌
- 和雑誌
- 洋雑誌
- AV資料

所属機関

- 木更津高専
- 全参加館

検索オプション

- 出版年: -
- 出版国: (指定なし)
- 言語: (指定なし)
- 分野: (全分野)

全ての項目から

著者名に左の語を含む

出版社・出版者

* 図書館システムが新しくなりました。蔵書検索(OPAC)の詳しい使い方は「ヘルプ」をご覧ください。
 * E-Conan 蔵書検索：所属機関「全参加館」を選択して検索すると、長岡技術科学大学と全国国立高専の蔵書が一括検索できます。
 * 希望図書の申込みが、Webからもできるようになりました。「Mylibrary」にログインして「学生希望図書リクエスト」から申込みしてください。申込みをする前に図書館に所蔵がないかもう一度確認してください。対象者は学生・専攻科生です。

学校生活に関すること

木更津工業高等専門学校 学生委員会作成

2019年度新入生ガイダンス（学校生活に関すること）

学生心得 目次

- 学生心得
- 学問の修練 ～学生の誇りを持とう～
- 自由な人間 ～自分のために生きよう～
- 強健な身体 ～心も体も伸ばそう～
- 学園社会への参加 ～失敗なんて無い～
- 交友関係 ～交友を深めよう～
- 芸術・趣味・娯楽 ～人間性を豊かにしよう～
- 美しい人間と環境 ～身の回りを整えよう～
- 自己変革 ～あきらめずに良くしていこう～
- 政治・宗教・性の問題 ～重大問題は抱え込まない～
- （今日は省略）車の運転、喫煙・飲酒
- 道徳的非行 ～よい行いをしよう～

2019年度新入生ガイダンス（学校生活に関すること）

H31(2019)年度新入生学内研修スケジュール

	学科	担当	内容
4月10日(水)	M		
	E	学生1・●●●	学期に関する事
	D	学生2・●●●	学校生活に関する事
	J	教務・●●●	教務関係に関する事
	C		
4月12日(金)	M	学生1・●●●	学期に関する事
	E	学生2・●●●	学校生活に関する事
	D		
	J		
	C	教務・●●●	教務関係に関する事
4月15日(月)	M	教務・●●●	教務関係に関する事
	E		
	D	学生1・●●●	学期に関する事

	J	学生②・米村	学校生活に関すること
	C		
4月17日(水)	M		
	E		
	D	教務・ 	教務関係に関すること
	J	学生①・ 	学則に関すること
	C	学生②・ 	学校生活に関すること
4月19日(金)	M	学生②・ 	学校生活に関すること
	E	教務・ 	教務関係に関すること
	D		
	J		
	C	学生①・ 	学則に関すること

「教務関係に関すること」では【学生便覧を使用】して、以下の点が説明されている。

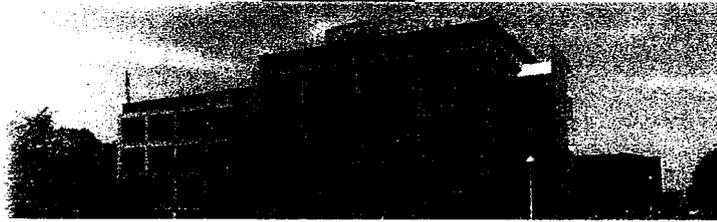
- ・本校の5年の過程で卒業時にどのような人材となって卒業するのか、ディプロマポリシーを説明。
- ・そのような人材になるためにどのようなカリキュラムが構成されているか、カリキュラムポリシーを説明。
- ・履修単位（30時間で1単位）と学修単位の違いの説明。
学修単位は45時間（授業15時間，予習復習の自学自習が30時間）で1単位となること。本校は、この自学自習を15歳の段階で自ら行えるようにするため、課題学習時間を時間割に入れて自学自習を行う力を培うようにしていること。
- ・その他、単位修得や修了の条件などを説明。

資料「学生からの質問受け付けについて」

2020/2/19

シラバス | 木更津工業高等専門学校

シラバス



[TOP](#) > [スクールライフ](#) > シラバス

※授業に関する質問等は、授業担当教員にご相談ください。

平成31年度シラバス

■ 准学士課程

[機械工学科](#)

[電気電子工学科](#)

[電子制御工学科](#)

[情報工学科](#)

[環境都市工学科](#)

[2019特別字修一覧表](#)

■ 専攻科課程

[機械・電子システム工学専攻](#)

[制御・情報システム工学専攻](#)

[環境建設工学専攻](#)

シラバス

[平成31年度シラバス](#)

[平成30年度シラバス](#)

[平成29年度シラバス](#)

[平成28年度シラバス](#)

[平成27年度シラバス](#)

[平成26年度シラバス](#)

[平成25年度シラバス](#)

[平成24年度シラバス](#)

[平成23年度シラバス](#)

[平成22年度シラバス](#)

[平成21年度シラバス](#)

[平成20年度シラバス](#)

[平成19年度シラバス](#)

[学生便覧](#)

[学生寮](#)

[課外活動](#)

平成30年度シラバス

■ 准学士課程

[機械工学科](#)

[電気電子工学科](#)

[電子制御工学科](#)

[情報工学科](#)

[環境都市工学科](#)

■ 専攻科課程

[機械・電子システム工学専攻](#)

[制御・情報システム工学専攻](#)

[環境建設工学専攻](#)

資料「学生相談室の利用」

3-5 学生相談室の利用

人は皆それぞれに、さまざまな問題を抱えて生きています。まして、多感な青春時代はなおさらです。勉学や友人関係、クラブ活動、兄弟や親子関係、健康や性の悩み等々、私達の悩みや不安、心配の種はいつも尽きることはありません。人は青春時代に、さまざまな難関に遭遇し、もがき苦しみ、それを乗り越えて、内面的な成長を遂げてゆきます。

しかし、どんなに努力してみても、自分一人の力では容易に解決しないばかりか、ますます混乱が深まり、ついには立ち上がれないほどに疲れ切ってしまうこともあります。

学生相談室は、青春時代のさまざまな疑問や問題を学生と共に考え、学生が心身に健

-108-

康で充実した学生生活を送れるよう、手助けをさせてもらうところです。自分一人ではどうすることも出来ないと思うような時、ほんの少し、勇気を出して学生相談室に足を向けてみませんか。プライバシーは一切、堅く守ります。どうか、学生相談室の存在を心のどこかに留めておいてください。

担当者	相談場所	相談日
[redacted] (カウンセラー)	学生相談室 (講義棟 A)	毎週火曜日 (10:00 ~ 12:00) (13:00 ~ 17:00) 毎週木曜日 (13:00 ~ 17:00) 毎週金曜日 (13:00 ~ 18:00) 毎月1回水曜日 (17:00 ~ 20:00)
[redacted] (カウンセラー)		毎週月曜日 (12:00 ~ 16:00)
[redacted] (カウンセラー)		毎週水曜日 (12:00 ~ 17:00)
[redacted] (学生相談室長)	[redacted] 教員室 [redacted]	随 時
[redacted] (看護師)	保 健 室 (講義棟 A)	
[redacted] (非常勤看護師)		

出典「学生便覧(p. 108, 109)」

木更津工業高等専門学校キャリア支援室規則

平成30年6月28日
規則第11号

(設置)

第1条 木更津工業高等専門学校に、キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

(業務)

第2条 支援室は、就職支援・インターンシップ等について、次の業務を行う。

- (1) 企業等との就職相談に関すること。
- (2) インターンシップの派遣及び受入れに関すること。
- (3) 企業等からの就職案内情報の管理に関すること。
- (4) その他支援室の業務に関する必要な事項。

(室長及び室員)

第3条 支援室に、室長及び室員を置く。

- 2 室長は、就職支援等業務に従事するとともに室務を総括する。
- 3 室員は、就職支援等業務に従事する。

(委嘱)

第4条 室長は、教授又は准教授の中から校長が委嘱する。

- 2 室員は、校長が必要と認めた者若干名とし、校長が委嘱する。
- 3 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第5条 支援室の管理運営に関し審議するため、キャリア支援室委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
 - (1) 室長
 - (2) 室員
 - (3) 学生課長
 - (4) その他校長が必要と認めた者
- 3 室長は、委員会を招集し、その議長となる。

(事務)

第6条 支援室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、支援室に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成30年7月1日から施行する。
- 2 この規則第4条第3項に規定する室長及び室員の最初の任期は、この規定にかかわらず平成32年3月31日までとする。

附 則

この規則は、令和2年1月9日から施行し、令和2年1月1日から適用する。

6 学友会活動

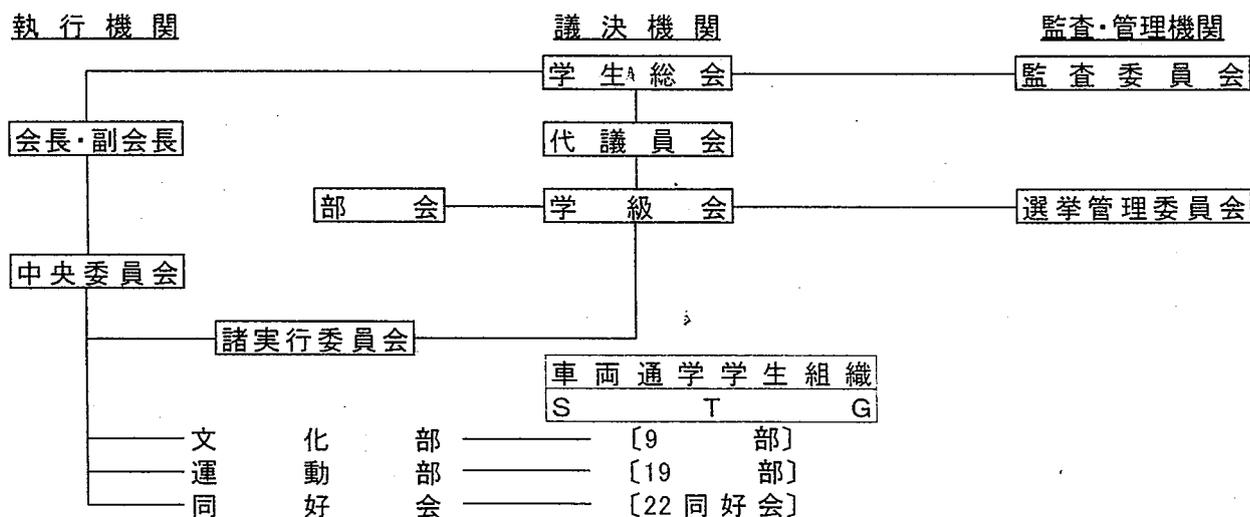
6-1 学友会の活動

本校では、勉学はもとより学生生活を通じて、自立・自考の精神を養うために、課外活動にも力を入れています。そのための学生組織として、学友会があります。現在、文化部（9部）、運動部（19部）そして同好会（22同好会）が結成され、活発に活動しています。

学友会活動の拠点として、学友会館があります。学友会館には、奏室や学友会室の他に、80名収容できる合宿研修施設があり、運動部等の強化合宿、文化部の合宿その他研修などに利用され、学友会活動におおいに役立っています。

また、本校には、車両通学生組織（略称 STG）があり、学生が車両で通学する場合の安全運転教育を行い、通学時の交通事故防止と運転の正しいマナーの指導を行っています。

学友会機構図



1. 学寮の目的と運営組織

1) 学寮の目的

- 学寮は本校の課外教育施設であり、その目的は次の3つからなります。
- (1) 安全で健康な生活環境を提供すること。
 - (2) 修学を支援すること。
 - (3) 規律ある共同生活と地域社会への貢献を通じて人間形成を図ること。

2) 「群制度」の内容

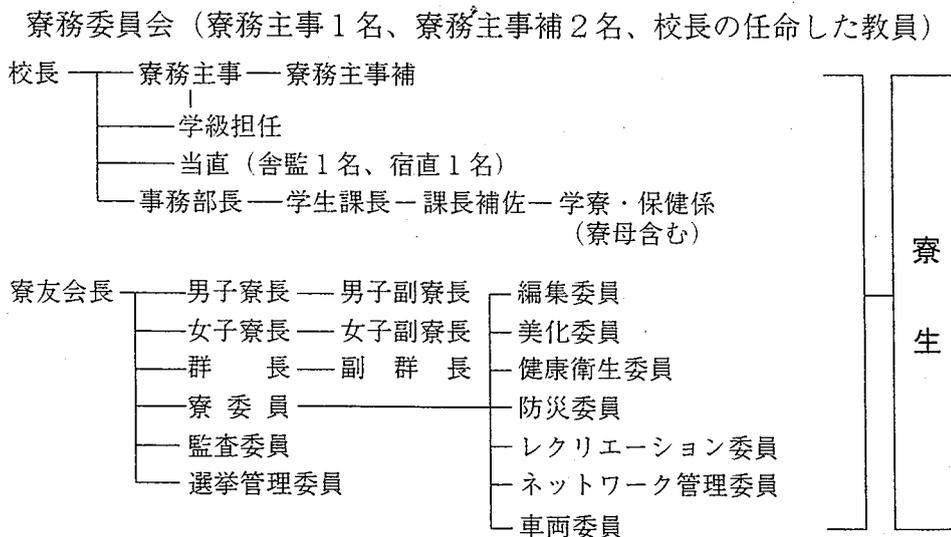
学寮が課外教育施設としての目的を十分に果たすため、独自の群制度を導入しています。群とは、居室・談話室及びサービスエリアをもって構成される単位であり、各群は1年生から5年生までの寮生30~40名程度で構成されます。男子寮は1階から4階までの各フロアを東西に分けて8群、女子寮は全体でひとつの群となります。各群は、群長をリーダーとして自分達で定めた「生活規範」に従い、より自由な雰囲気の中で各自が責任を持って、その最善と考える共同生活の実現に努力します。

3) 組織

学寮は下図の組織によって運営されています。寮生の指導については全教員が、また施設設備の維持管理、寮費等については学生課学寮・保健係（以下、学寮事務室）が担当します。

寮友会は、学寮規程第15条に基づき、学寮における日常生活上の具体的な問題を運営組織内で率先して処理し、これを自主的に規律します。

〔 運 営 組 織 図 〕



木更津工業高等専門学校 副校長及び事務部長が所掌する委員会規則

平成24年2月20日

規則第14号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第5条の2第4項及び第8条第3項の規定に基づき、副校長及び事務部長(以下「副校長等」という。)が所掌する委員会(以下「所掌」という。)を定める。

(教務主事の所掌)

第2条 副校長(教務主事)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 入試委員会
- (2) 教務委員会
- (3) FD推進委員会
- (4) 教育研究支援センター運営委員会
- (5) 図書館運営委員会
- (6) ネットワーク情報センター運営委員会
- (7) 中期計画推進委員会

(学生主事の所掌)

第3条 副校長(学生主事)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 学生委員会
- (2) 安全衛生委員会
- (3) 学生相談室委員会
- (4) キャリア支援室委員会

(寮務主事の所掌)

第4条 副校長(寮務主事)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 寮務委員会
- (2) 留学生支援委員会

(専攻科長の所掌)

第5条 副校長(専攻科長)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 専攻科委員会
- (2) 点検・評価委員会
- (3) 研究促進・知的財産委員会

(地域共同テクノセンター長の所掌)

第6条 副校長(地域共同テクノセンター長)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 地域共同テクノセンター運営委員会
- (2) 実習工場運営委員会

(総務担当副校長の所掌)

第7条 副校長(総務担当)は、次の委員会を所掌する。

- (1) 広報・企画委員会

(2) 国際交流センター運営委員会

(事務部長の所掌)

第8条 事務部長は、次の委員会を所掌する。

(1) 施設整備・環境委員会

(委員会への出席)

第9条 副校長等は、所掌している委員会に出席し、委員会を掌理するものとする。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会所掌に関し、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

木更津工業高等専門学校危機管理規程

平成23年5月26日

規則第 1 号

(目的)

第1条 この規程は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制、対処方法等を定めることにより、本校の学生、教職員及び近隣住民等の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、危機管理とは次条に定める危機事象の原因と状況を把握、予知又は分析し、その事象によってもたらされる事態を想定することにより、被害や影響を回避又は軽減し、最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。

(危機管理の対象)

第3条 第1条の目的を達成するため、この規程に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は、次の各号の一に該当するものであって、組織的・集中的に対処することが必要な事態とする。

- (1) 学生及び教職員の安全にかかわる重大な事態
- (2) 本校の教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
- (3) 本校に対する社会的信頼を損なう事態
- (4) 施設管理上の重大な事態
- (5) その他前各号に類するような事態

(危機管理のための校長等の責務)

第4条 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。

- 2 副校長は、校長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。
- 3 学科・学系主任は校長、副校長と連携し全学的な危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 4 教職員は、危機管理意識をもって、その職務の遂行に当たるものとする。

(リスク管理室の設置)

第5条 本校にリスク管理室を設置する。

- 2 リスク管理室は、本校の危機管理に関して総括し、危機管理体制の充実に努め、対処に必要な危機管理に当たる。
- 3 リスク管理室の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 校長
 - (2) 副校長

- (3) 各学科・学系主任
 - (4) 事務部長、総務課長及び学生課長
 - (5) その他校長が指名する者
- 4 リスク管理室に室長を置き、校長をもって充てる。室長に事故があるときは、副校長（教務主事）がその職務を代行する。
- 5 第3項第2号から第5号に掲げる者をリスク管理員とする。

（リスク管理室の業務等）

第6条 リスク管理室は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 危機管理対応組織となり、危機事象における情報収集、対応方針、対応方法、対応担当者等の決定及び指示
- (2) 重大な損失を伴う事態が発生したときの緊急対策
- (3) 必要に応じて、機構本部リスク管理対策本部、関係行政機関及び保護者等との連携
- (4) 必要に応じて、教員会議、保護者会等を開催し、情報収集、事態等を説明
- (5) 想定される危機事象に関する検討、情報収集、分析及び対応策の立案と実施
- (6) 危機管理マニュアル等の作成、見直し及び周知
- (7) 教職員及び学生への教育及び訓練の実施
- (8) 緊急時の情報伝達体制の整備
- (9) その他危機管理に係る事項

（リスク管理員以外の出席）

第7条 リスク管理室長が必要と認めるときは、リスク管理員以外の者を会議に出席させ、当該事項の意見を述べさせることができる。

（危機事象に関する通報等）

- 第8条 教職員及び学生は、緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生する恐れがあることを発見した場合は、リスク管理員に通報しなければならない。
- 2 リスク管理員は、前項の通報を受け、又は自ら危機事象を察知した場合は、直ちに室長に連絡するとともに、当該危機事象の状況を確認し、室長と対処方針を協議しなければならない
 - 3 前項の協議により対処方針等を決定したときは、次条により対策本部を設置する場合を除き、リスク管理室が対処に当たるものとする。

（対策本部の設置）

- 第9条 校長は、危機事象の対処のために必要と判断する場合は、速やかに当該事象に係る対策本部を設置するものとする。
- 2 対策本部の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 本部長は、校長をもって充て、対策本部の業務を統括する。
 - (2) 副本部長は、副校長（教務主事）及び事務部長をもって充て、本部長を補佐する。
 - (3) 本部員は、教務主事以外の副校長、総務課長及び学生課長をもって充てる。ただし、

必要に応じて本部長の指名する者を加えることができる。

- 3 対策本部は、危機事象への対処の終了をもって解散する。

(対策本部の権限等)

第10条 対策本部は、本部長の指揮の下に、迅速に危機事象に対処しなければならない。

- 2 教職員及び学生は、対策本部の指示に従わなければならない。

- 3 対策本部は、危機事象の対処終了後に、必要事項をリスク管理室に報告しなければならない。

(機構本部リスク管理本部等との連携)

第11条 対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

(校長が不在の場合の措置)

第12条 校長が出張等により不在の場合は、校長が指名する副校長が、この規程に基づき、危機管理に対処するものとする。

(秘密保持の義務)

第13条 本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(事務)

第14条 危機管理に関する事務は、総務課が行う。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成23年5月26日から施行する。

資料「科研費説明会の開催通知」

Subject:

[D-staff] 【9/17 (火) 15時から】科研費説明会の開催について

From:

研究協力・地域連携係 [REDACTED] >

Date:

2019/09/02 19:00

To:

全職員(嘱託, 業務支援室含) < [REDACTED] >

CC:

研究協力・地域連携 < [REDACTED] >

教職員 各位

(CC: 研究協力係)

いつもお世話になっております。

研究協力係の [REDACTED] です。

高専機構本部より、日本学術振興会より講師をお招きして
科研費説明会 (TV 会議) を開催する旨連絡がありましたので
お知らせいたします。

会場および詳細は下記のとおりです。

日時: 令和元年9月17日 (火) (※質疑応答含む)

会場: 本校多目的室 A (TV 会議)

- ・ 第一当事務担当者向け : 15 : 00 ~ 16 : 00
- ・ 第二部研究者向け : 16 : 15 ~ 17 : 15

講演者:

- ・ 第一部 : [REDACTED] ([REDACTED])
(研究事業部研究助成第一課・研究助成第二係・係長)
- ・ 第二部 : [REDACTED] ([REDACTED])
(研究事業部研究助成企画課・課長代理)

講演概要

< 第1部 事務担当者向説明会(予定) >

資料「科研費ピアレビューの実施計画に関する資料」

科研費ピアレビューの実施計画について（平成 28 年度）

- (1) 応募の有無と、種目について連絡

10月2日（月）研究協力・地域連携係にメールにて連絡

- (2) レビュアーの担当調整（科研費採択者を中心に依頼している。）

レビュアー案（平成 28 年度）

人文	■■■■■
基礎	■■■■■
機械	■■■■■
電気	■■■■■
制御	■■■■■
情報	■■■■■
環境	■■■■■

- (3) 初稿提出 10月6日（金）・・・実際は10月10日（月祝）中。

提出方法 科研費電子システム上にアップロード

- (4) ピアレビュー期間 10月10日（火）～10月20日（金）（実質10月23日朝まで）
研究協力・地域連携係より、レビュアーに印刷物（場合によってはPDFファイルにて）配布

（レビュアーについては、申請者に開示しない）

期間中に、印刷物に記入、別紙にコメント等をつけて、研究協力・地域連携係まで提出

※並行して事務的チェック

- (5) 研究協力・地域連携係より、申請者にレビュアーのコメント等連絡

- (6) 訂正原稿の提出（科研費電子申請システムのアップロード）

- (7) 研究協力・地域連携係による事務的チェック

- (8) 応募書類転送

※平成 29 年度以降同様に実施している。

出典「研究協力・地域連携係作成資料」

令和元年度 外部講師を招いて行った合同 HR

令和元年 6月27日(木)

第1学年対象 交通講話 [REDACTED]
第3学年対象 薬物乱用防止講演会
[REDACTED]

令和元年 7月4日(木)

第3学年対象 性感染症予防講演会
[REDACTED] [REDACTED]

令和元年 12月5日(木)

第2学年対象 若者のためのDV予防セミナー
若者向けDV予防講座ファシリテーター
[REDACTED]

出典「学生課作成資料」

SD等研修の実績（平成29年度～令和元年度）

項 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外部機関の開催する 教員研修会に対して、 教員の派遣を促進す る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月1・2日 心の問題と成長支援ワー クショップ(日本学生支援機構) 1名 ・ 11月24～26日 全国学生相談研修会 (日本学生相談会) 学生相談室長 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月13日～9月14日 障害学生支援実務者育 成研修会（日本学生支援機構） 1名 ・ 12月9日～12月11日 全国学生相談研修会 (日本学生相談会) 学生相談室長 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月22日～8月23日 障害学生支援実 務者育成研修会(日本学生支援機構) 1名 ・ 11月17日～11月19日 全国学生相 談研修会(日本学生相談会) 学生相 談室長 1名
事務職員および技術 職員の能力向上を図 るため、学内の研修を 実施する。併せて機 構、文部科学省、国立 大学法人等が主催す る研修会に積極的に 職員を参加させる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機構会計入門研修 2名 ・ 機構初任職員研修会 1名 ・ 公文書管理研修 I 1名 ・ 情報公開・個人情報保護制度研修会 1名 ・ 機構新任教員研修会 2名 ・ 千葉県養護教諭研修会 1名 ・ 千葉大学若手職員スキルアップ研修 2名 ・ 機構三機関連携グローバルSD(マレー シア・ペナン研修) 1名 ・ 全国障害学生支援セミナー 1名 ・ 情報システム統一研修 3名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公文書管理研修 1名 ・ 機構初任職員研修会 1名 ・ 養護教諭ステップアップセミナー 1名 ・ 全国学生相談研修会 1名 ・ 障害学生支援実務者育成研修会 2名 ・ 機構若手職員研修会 1名 ・ 関東・甲信越地区実践セミナー 1名 ・ 関東・甲信越地区大学安全衛生研究会 1名 ・ 機構新任教員研修会 1名 ・ 関東・甲信越地区会計事務研修 1名 ・ 千葉県養護教諭研修会 1名 ・ 機構IT人材育成研修会 1名 ・ 機構教員研修会(管理職研修) 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機構初任職員研修会 1名 ・ 公文書管理研修 I 1名 ・ 東日本地域高等専門学校技術職員特別 研修会 1名 ・ 養護教諭研修会 1名 ・ 養護教諭ステップアップセミナー 1名 ・ 機構新任課長研修会 2名 ・ 機構IT人材育成研修会 1名 ・ 機構中堅教員研修会 1名 ・ 関東信越地区国立高専技術職員研修会 ・ 機構教員研修会(管理職研修) 2名 ・ 全国国立高専学生支援担当教職員研修 3名

S D等研修の実績（平成29年度～令和元年度）

項 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
<p>事務職員および技術職員の能力向上を図るため、学内の研修を実施する。併せて機構、文部科学省、国立大学法人等が主催する研修会に積極的に職員を参加させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機構IT人材育成研修会 1 名 ・ 機構教員研修会(管理職研修) 2 名 ・ 機構学生指導支援実施責任者研修 1 名 ・ 機構中堅教員研修会 2 名 ・ 全国国立高専学生支援担当教職員研修 2 名 ・ 関東信越地区国立高専技術職員研修会 2 名 ・ 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会 1 名 ・ 東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修 1 名 ・ 千葉大学係長(専門職員)研修 1 名 ・ 機構情報担当者研修会 3 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国国立高専学生支援担当教職員研修 3 名 ・ 関東信越地区国立高専技術職員研修会 1 名 ・ 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会 1 名 ・ 機構情報担当者研修会 4 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修 1 名 ・ 千葉大学係長(専門職員)研修 1 名 ・ 関東・甲信越地区会計事務研修 1 名 ・ 機構若手職員研修会 1 名 ・ 機構情報担当者研修会 2 名 ・ 関東・甲信越地区実践セミナー 3 名

資料「刊行物の該当箇所がわかる資料」

項目	学校要覧 (2019)	学生便覧 (2019)	令和2年度入学者募集要項	キャンパスマップ 2020	
1	高等専門学校の教育上の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の使命 (p. 2) ・本校の教育方針 (p. 2) ・準学士課程の学習・教育目標 (p. 8) ・専攻科課程の学習・教育目標 (p. 22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 (p. 1) ・準学士課程の学習・教育目標 (p. 9) ・専攻科課程の学習・教育目標 (p. 11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の教育基本方針 (p. 12) ・準学士課程の各学科の教育目的 (p. 12-13) 	
	三つの方針 (アドミッション)	・準学士課程 (p. 3-4)	・準学士課程 (p. 2-5)	・準学士課程 (表紙)	・準学士課程 (p. 1)
	三つの方針 (カリキュラム)	・専攻科課程 (p. 4)	・専攻科課程 (p. 6-7)		
	三つの方針 (ディプロマ)				
2	教育研究上の基本組織	組織図 (p. 6)			
3	教員組織	<ul style="list-style-type: none"> ・役職者一覧 (p. 7) ・人文・基礎学系教員一覧 (p. 11) ・機械工学科教員一覧 (p. 13) ・電気電子工学科教員一覧 (p. 15) ・電子制御工学科教員一覧 (p. 17) ・情報工学科教員一覧 (p. 19) ・環境都市工学科教員一覧 (p. 21) 			
	教員数	・職員現員 (p. 6)			
	教員が有する学位	<ul style="list-style-type: none"> ・人文・基礎学系教員 (p. 11) ・機械工学科教員 (p. 13) ・電気電子工学科教員 (p. 15) ・電子制御工学科教員 (p. 17) ・情報工学科教員 (p. 19) ・環境都市工学科教員 (p. 21) 			
	教員が有する業績	・科研費採択状況、共同研究・受託研究・奨学寄附金受け入れ状況 (p. 40)			
4	入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、	・学生定員・現員 (p. 36)	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の入学定員 (p. 124) ・専攻科の入学定員 (p. 129) 		
	卒業又は修了した者の数	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の卒業生数 (p. 38) ・専攻科課程の修了生数 (p. 39) 			

	進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の就職者数および進学者数 (p. 38) ・準学士課程卒業者の就職先一覧および進学先一覧 (p. 38-39) ・専攻科の就職者数および進学者数 (p. 39) ・専攻科修了者の就職先一覧および進学先一覧 (p. 38-39) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路 (準学士課程及び専攻科の就職先と進学先一覧) (p.207-210) 		<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の就職先一覧と卒業生の声 (p. 5) ・準学士課程の進学先一覧と卒業生の声 (p. 6)
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・一般教育の科目一覧 (p. 9) ・機械工学科科目一覧 (p. 13) ・電気電子工学科科目一覧 (p. 15) ・電子制御工学科科目一覧 (p. 17) ・情報工学科科目一覧 (p. 19) ・環境都市工学科科目一覧 (p. 21) ・専攻科科目一覧 (p. 23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程の教育課程表 (p. 38-62) ・専攻科の教育課程表 (p. 73-75) ・シラバスの利用法 (p. 79) 		
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価、修了の条件、留年・仮進級・卒業の条件 (p. 30-33) ・専攻科課程の履修要領 (p. 76-80) 		
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設概要 (敷地、建物一覧、配置図) (p. 41) ・主要施設等 (実験実習棟、図書・ネットワークセンター棟、学寮など) (p. 30-33) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用 (図書館、合宿所の利用方法) (p. 117-119) 		
8	授業料、入学金その他の高等専門学校が徴収する費用		<ul style="list-style-type: none"> ・検定料、入学金、授業料及び寄宿料の取り扱いに関する説明 (p. 127-128) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学に必要な経費 (入学金、授業料、寮費など) (p. 13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 (準学士課程と専攻科の合計) (p. 1)
9	高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室、学生相談室、学習支援スペース (p. 33) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生 (奨学金、保健室、学生相談室、各種ハラスメント行為への対応、災害共済給付制度など) (p. 103-113) 		

出典「点検・評価委員会資料」

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										学修単位 [注1]	備考	
			1年		2年		3年		4年		5年				
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
必修科目	国語 I A	2	2										○		
	国語 I B	2		2									○		
	国語 II A	1			1										
	国語 II B	1				1									
	国語 III	1					1								
	国語表 現	1								1					
	地理 A	1	1												
	地理 B	2		2										○	
	歴史 A	1			1										
	歴史 B	2				2									
	現代社会 A	1					1								
	現代社会 B	2						2							
	美術	1		1											前期又は後期に受講
	英語 I A	1	1												
	英語 I B	1		1											
	英語 II A	1	1												
	英語 II B	1		1											
	英文法	2	2											○	
	英語 III A	1			1										
	英語 III B	1				1									
	英語 IV A	1			1										
	英語 IV B	1				1									
	英語 V A	1					1								
	英語 V B	1						1							
	ドイツ語 I A	1					1								
	ドイツ語 I B	1						1							
	保健体育 I A	1	1												
	保健体育 I B	1		1											
	保健体育 II A	1			1										
	保健体育 II B	1				1									
	体育 I A	1					1								
	体育 I B	1						1							
	体育 II	1							1						
	体育 III	1								1					
	基礎数学 I	3	3												
	基礎数学 II	2		2											
	基礎数学 III	1		1											
	線形代数 I A	1			1										
	線形代数 I B	1				1									
	微分積分 I A	2			2										
微分積分 I B	2				2										
線形代数 II	1						1								
微分積分 II	2					2									
微分積分 III	2						2						○		
基礎科学	1	1													
物理学 I	1		1												
物理学 II A	1			1											
物理学 II B	1				1										
ライフサイエンス・ アースサイエンス	1						1								
物理学 III	1						1								
物理学 IV	1							1							
基礎化学 I A	1	1													
基礎化学 I B	1		1												
化学 I A	1			1											
化学 I B	1				1										
化学 II	1						1								

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数								学修単位 [注1]	備考		
			1年		2年		3年		4年				5年	
			前	後	前	後	前	後	前	後			前	後
必修科目	日本語ⅠA	1			1								留学生のみ受講	
	日本語ⅠB	1				1								
	日本語ⅡA	1						1						
	日本語ⅡB	1							1					
	日本語ⅢA	1								1				
	日本語ⅢB	1									1			
	日本事情ⅠA	1				1								
	日本事情ⅠB	1					1							
開設単位計	77	26	21	23	4	3				14				
必修選択科目	英語演習ⅠA	1						1					同時開講 [注2] うち1科目選択	
	英会話ⅠA	1						1					同時開講 [注2] うち1科目選択	
	英語演習ⅠB	1							1				同時開講 [注2] うち1科目選択	
	英会話ⅠB	1							1				同時開講 [注2] うち1科目選択	
	英語演習Ⅱ	1								1			同時開講 [注2] うち1科目選択	
	英会話Ⅱ	1								1			同時開講 [注2] うち1科目選択	
	哲学A	2						2				○	同時開講 うち1科目選択	
	経済学A	2						2				○	同時開講 うち1科目選択	
	社会学A	2						2				○	同時開講 うち1科目選択	
	哲学B	2							2			○	同時開講 うち1科目選択	
	経済学B	2							2			○	同時開講 うち1科目選択	
社会学B	2							2			○	同時開講 うち1科目選択		
一般特別セミナー	1				1							プロジェクト実習と 同時開講、いずれか選択		
開設単位計	19	0	0	1	16	2				12				
選択科目	国文学	1								1			同時開講	
	心理学	1								1				
	法学	1								1				
	ドイツ語ⅡA	1						1					同時開講	
	中国語ⅠA	1						1					同時開講	
	ドイツ語ⅡB	1							1				同時開講	
	中国語ⅠB	1							1				同時開講	
	ドイツ語ⅢA	1								1			同時開講	
	中国語ⅡA	1								1			同時開講	
	ドイツ語ⅢB	1									1		同時開講	
	中国語ⅡB	1									1		同時開講	
	日本文化論	1				1							集中講義、 2年生以上対象	
	開設単位計	12	0	1	0	4	7				0			
特別学修	一般及び専門の特別学修(※)と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効 ※特別学修(旧開設科目)の認定単位数を含む。										[注3]			
本校以外の教育施設における学修											[注4]			
開設単位合計	108	26	22	24	24	12				26		特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない		

注1：1単位：15時間+自学自習30時間、1履修単位→2.0学修単位

注2：英語科目に関し、次のような振替措置を行う。なお、詳細については、英語の授業時に説明される。

資格試験（合格/得点）	振替を行う授業科目	単位数	評点
実用英検準2級	英語演習ⅠA及び英語演習ⅠB ^{※1}	各1	各90
工業英検4級			
TOEIC L&R 400点以上 ^{※2}	英語演習Ⅱ	1	80~ ^{※2}
※1 2科目一括でのみ振替措置を行う。			
※2 TOEIC L&R 400~424点：80点、425~449点：90点、450~469点：100点。 470点以上得点の場合は「特別学修」による単位認定も併せて行われる。			

注3：特別学修の内容は、別に定める。

注4：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

機械工学科【1~4年生】

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										学修単位 [注1]	備考	
			1年		2年		3年		4年		5年				
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
必修科目	応用数学 A	2							2					○	
	応用物理実験	1								1					
	情報処理 I	1	1												
	情報処理 II	1		1											
	情報処理 III	1			1										
	機構学 I	1				1									
	機構学 II	2					2							○	
	工業力学 I	1			1										
	工業力学 II	1				1									
	機械力学 I	2								2				○	
	機械力学 II	2									2			○	
	材料力学 I	1						1							
	材料力学 II	2							2					○	
	材料力学 III	2								2				○	
	材料学 I	1					1								
	材料学 II	2						2						○	
	材料学 III	2							2					○	
	熱力学 I	2							2					○	
	熱力学 II	2								2				○	
	伝熱工学	1										1			
	流体力学 I	1							1						
	流体力学 II	2								2				○	
	流体力学 III	2										2		○	
	機械工作法 I	2						2						○	
	機械工作法 II	2							2					○	
	設計法 I	1								1					
	設計法 II	1										1			
	図学製図 I	1	1												
	図学製図 II	1		1											
	設計製図 I	1			1										
	設計製図 II	1					1								
	設計製図 III	1						1							
	設計製図 IV	1							1						
	電気回路	1			1										
	計測工学 I	1					1								
	計測工学 II	2						2						○	
	マイコン制御	1							1						
	電気工学演習	1								1					
	論理回路	1										1			
	制御工学 I	2										2		○	
制御工学 II	2											2	○		
工学演習 I	1										1				
工学演習 II	1										1				
工学演習 III	1											1			
技術者入門 I	1	1													
技術者入門 II	1		1												
工学実験 I A	1	1													
工学実験 I B	1		1												
工学実験 II A	1			1											
工学実験 II B	1				1										
工学実験 III A	1					1									
工学実験 III B	1						1								
工学実験 IV A	1							1							
工学実験 IV B	1								1						

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										学修単位 [注1]	備考		
			1年		2年		3年		4年		5年					
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
必修科目	製作実習Ⅰ	2				2										
	製作実習Ⅱ	2					2									
	製作実習Ⅲ	1							1							
	製作実習Ⅳ	1								1						
	課題研究	1								1						
	卒業研究	8										2	6			
	日本事情ⅡA	1					1									
	日本事情ⅡB	1						1								留学生のみ受講
	日本事情Ⅲ	1					1									
開設単位計	89	8		10		20		29		22			34			
必修選択科目	プロジェクト実習	1					1									一般特別セミナーと同時開講、いずれか選択
	応用数学B	2							2					○	1科目は必修	
	応用数学C	2							2					○	他方は選択科目	
	開設単位計	5	0		0		1		4		0		4			
選択科目	統計学	2									2			○		
	応用物理	1									1					
	学外実習	2							2							
	工業英語演習	1										1				
	論文作成技法	1										1				
	工学演習Ⅳ	1										1				
	開設単位計	8	0		0		0		2		6		2			
	特別学修	一般及び専門の特別学修(※)と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効 ※特別学修(旧開設科目)の認定単位数を含む。												[注2]		
本校以外の教育施設における学修													[注3]			
開設単位合計	102	8		10		21		35		28		40				特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない

注1：1単位：15時間+自学自習30時間、1履修単位→2.0学修単位

注2：特別学修の内容は、別に定める。

注3：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

資料「特別学修のシラバス」

特別学修一覧表

1. 木更津工業高等専門学校学則第13条第6項の規程に基づく、別表第1及び別表第2の特別学修についてはこの定めによる。
2. 特別学修は以下の一覧表とする。
3. この定めは平成13年4月1日から施行する。

特別学修一覧表

一般（全学科共通）

項目	表記	単 位	主催団体	窓口教員名
日本漢字能力検定 1級	漢字検定:1級	1	(公財)日本漢字能力検定協会	■■■■
日本漢字能力検定 準1級	漢字検定:準1級	1		
日本漢字能力検定 2級	漢字検定:2級	1		
実用英語技能検定 1級	実用英検:1級	2	(公財)日本英語検定協会	■■■■
実用英語技能検定 準1級	実用英検:準1級	2		
実用英語技能検定 2級	実用英検:2級	2		
実用英語技能検定 準2級	実用英検:準2級	1		
技術英語能力検定 プロフェッショナル	技術英検:プロ	2	(公社)日本工業英語協会	■■■■
技術英語能力検定 準プロフェッショナル	技術英検:準プロ	1		
技術英語能力検定 1級	技術英検:1級	1		
技術英語能力検定 2級	技術英検:2級	2		
技術英語能力検定 3級	技術英検:3級	1		
TOEIC L&R 730点以上	TOEIC L&R:上級	4	(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会	■■■■
TOEIC L&R 600点以上	TOEIC L&R:中級II	1		
TOEIC L&R 470点~599点	TOEIC L&R:中級I	1		
TOEIC L&R 400点以上	TOEIC L&R:初級	1		
ドイツ語基礎統一試験(ZD)	国際ドイツ語検定:B1	2	ゲーテ・インスティトゥート	■■■■
スタート・ドイツ語II (SD2)	国際ドイツ語検定:A2	1		
スタート・ドイツ語I (SD1)	国際ドイツ語検定:A1	1		
ドイツ語技能検定 2級	ドイツ語検定:2級	2	(公財)ドイツ語文学振興会	■■■■
ドイツ語技能検定 3級	ドイツ語検定:3級	1		
ドイツ語技能検定 4級	ドイツ語検定:4級	1		
技術士補	技術士第1次試験	4		
実践ドイツ語I	実践ドイツ語I	1		
実践ドイツ語II	実践ドイツ語II	1		
実践ドイツ語III	実践ドイツ語III	1		■■■■
技術イベント活動	技術イベント活動: ロボコンI, II, III, IV, V	1		■■■■
技術イベント活動	技術イベント活動: プロコンI, II, III, IV, V	1		■■■■
技術イベント活動	技術イベント活動: IVRCコースI, II, III IVRC I, II	1		■■■■
ボランティア活動	ボランティア活動:社会福祉	1		■■■■
ボランティア活動	ボランティア活動:地域支援	1		■■■■

国際交流	国際交流・外国人留学生支援	1		サブコタ アチェダ
国際交流	異文化理解 I	1		
国際交流	異文化理解 II	1		
国際交流	異文化理解 III	1		
国際交流	異文化理解 IV	1		
国際交流	日本理解	1	国際交流センター (特別聴講学生対象)	
国際交流	国際交流：プロジェクト実習 I	1		
国際交流	国際交流：プロジェクト実習 II	1		
国際交流	国際学術会議支援	1		
基礎原子力工学	基礎原子力工学：遠隔履修型	1		
品質管理検定 4 級	品質管理検定 4 級	1		
品質管理検定 3 級	品質管理検定 3 級 ※品質管理検定 4 級に合格していること。	1		

機械工学科

項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
機械設計技術者試験3級	機械設計技術者:3級	3	(一社)日本設計工業会	
危険物取扱者試験乙種第4類	危険物取扱者:乙種第4類	1	(一財)消防試験研究センター	
2級ボイラー技士試験	2級ボイラー技士	2		●
エックス線作業主任者試験	エックス線作業主任者	2	(公財)安全衛生技術試験協会	
ガンマ線透過写真撮影作業主任者試験	ガンマ線透過写真撮影作業主任者	2		
騒音・振動関係公害防止管理者試験	騒音・振動関係公害防止管理者	3	(一社)産業環境管理協会	
機械・プラント製図技能検定(機械製図手書き作業)3級	3級 機械・プラント製図技能士(手書き)	1	中央職業能力開発協会	●
機械・プラント製図技能検定(機械製図CAD作業)3級	3級 機械・プラント製図技能士(CAD)	1		
機械加工技能検定(普通旋盤作業)2級	2級 機械加工技能士(旋盤)	1		
機械加工技能検定(普通旋盤作業)3級	3級 機械加工技能士(旋盤)	1		
機械加工技能検定(フライス盤作業)2級	2級 機械加工技能士(フライス盤)	1		
機械加工技能検定(フライス盤作業)3級	3級 機械加工技能士(フライス盤)	1		
トレース技能検定試験2級	トレース技能検定:2級	1		
CADトレース技能審査・機械部門 初級	CADトレース技能・機械部門:初級	1	中央職業能力開発協会	
CADトレース技能審査・機械部門 中級	CADトレース技能・機械部門:中級	2	中央職業能力開発協会	
3次元CAD利用技術者試験 2級	3次元CAD利用技術者:2級	1	(一社)コンピュータソフトウェア協会	●
3次元CAD利用技術者試験 準1級	3次元CAD利用技術者:準1級	2		
3次元CAD利用技術者試験 1級	3次元CAD利用技術者:1級	2		
情報検定(J検)情報システム試験基本スキル	情報検定:情報システム基本スキル	1	(一財)職業教育・キャリア教育財団	●
情報検定(J検)情報システム試験プログラミングスキル	情報検定:情報システムプログラミングスキル	1		
情報検定(J検)情報システム試験システムデザインスキル	情報検定:情報システムデザインスキル	1		
情報検定(J検)情報活用試験2級	情報検定:情報活用2級	1		
情報検定(J検)情報活用試験1級	情報検定:情報活用1級	1		
情報検定(J検)情報デザイン試験初級	情報検定:情報デザイン初級	1		
情報検定(J検)情報デザイン試験上級	情報検定:情報デザイン上級	1		
情報処理技術者試験基本情報技術者試験	情報処理技術者:基本情報	1	(独)情報処理推進機構	
情報処理技術者試験ITパスポート試験	情報処理技術者:ITパスポート	1		

電気電子工学科

項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
第1種または第2種電気主任技術者	電気主任技術者:2種	4	(一財)電気技術者試験センター	
第3種電気主任技術者	電気主任技術者:3種	2		
第3種電気主任技術者の2科目合格	電気主任技術者:科目合格	2		
第1種電気工事士	電気工事士:1種	1	(公財)日本無線協会	
第2種電気工事士	電気工事士:2種	1		
第1級陸上無線技術士	陸上無線技術士:1級	2		
第2級陸上無線技術士	陸上無線技術士:2級	1	(公財)日本無線協会	
第1級陸上特殊無線技術士	陸上特殊無線技術士:1級	1		
アマチュア無線技術士1級または2級	アマチュア無線:2級	1		
電気通信主任技術者 線路主任	電気通信技術:線路	1	(一財)日本データ通信協会	
電気通信主任技術者 伝送交換主任	電気通信技術:交換	1		
工事担任者 AI・DD 総合種	工事担任者:総合種	2		
工事担任者 AI 第1種または第2種	工事担任者:AI2種	1		
工事担任者 AI 第3種	工事担任者:AI3種	1		
工事担任者 DD 第1種または第2種	工事担任者:DD2種	1		
工事担任者 DD 第3種	工事担任者:DD3種	1	(公財)国際文化カレッジ	
ラジオ・音響技能検定1級	ラジオ・音響検定:1級	1		
ラジオ・音響技能検定2級	ラジオ・音響検定:2級	1		
ラジオ・音響技能検定3級	ラジオ・音響検定:3級	1		
デジタル技術検定1級	デジタル検定:1級	1		
デジタル技術検定2級	デジタル検定:2級	1		
デジタル技術検定3級	デジタル検定:3級	1	(独)情報処理推進機構	
システム監査技術者	情報処理技術者:システム監査	2		
ITサービスマネージャ	情報処理技術者:ITサービスマネージャ	2		
情報セキュリティスペシャリスト	情報処理技術者:情報セキュリティ	2		
エンベデッドシステムスペシャリスト	情報処理技術者:エンベデッドシステム	2		
データベーススペシャリスト	情報処理技術者:データベース	2		
ネットワークスペシャリスト	情報処理技術者:ネットワーク	2		
プロジェクトマネージャ	情報処理技術者:プロジェクトマネージャ	2		
システムアーキテクト	情報処理技術者:システムアーキテクト	2		
ITストラテジスト	情報処理技術者:ITストラテジスト	2		
応用情報技術者	情報処理技術者:応用情報	2		
基本情報技術者	情報処理技術者:基本情報	1		
ITパスポート	情報処理技術者:ITパスポート	1	(一財)職業教育・キャリア教育財団	
情報検定(I検) 情報活用試験1級	情報検定:情報活用試験1級	1		
情報検定(I検) 情報活用試験2級	情報検定:情報活用試験2級	1		
CGエンジニア検定 エキスパート	CG検定:エキスパート	1		
画像処理エンジニア検定エキスパート	画像処理エンジニア検定:エキスパート	1		
パソコン技能検定0種試験1級	パソコン技能検定:1級	1	(一財)全日本情報学習振興協会	
技術製作活動	技術製作活動	1	-	
研究活動	研究活動	1	-	
プロジェクトマネジメントI	プロジェクトマネジメントI	1	-	
プロジェクトマネジメントII	プロジェクトマネジメントII	1	-	
上級プロジェクトマネジメント	上級プロジェクトマネジメント	1	-	

電子制御工学科

項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名	
デジタル技術検定 1級	デジタル検定:1級	1	(公財)実務技能検定協会	[Redacted]	
デジタル技術検定 2級	デジタル検定:2級	1			
デジタル技術検定 3級	デジタル検定:3級	1			
情報処理技術者	システム監査技術者	情報処理技術者:システム監査	2		(独)情報処理推進機構
	IT サービスマネージャ	情報処理技術者:IT サービスマネージャ	2		
	情報セキュリティスペシャリスト	情報処理技術者:情報セキュリティ	2		
	エンベデッドシステムスペシャリスト	情報処理技術者:エンベデッドシステム	2		
	データベーススペシャリスト	情報処理技術者:データベース	2		
	ネットワークスペシャリスト	情報処理技術者:ネットワーク	2		
	プロジェクトマネージャ	情報処理技術者:プロジェクトマネージャ	2		
	システムアーキテクト	情報処理技術者:システムアーキテクト	2		
	ITストラテジスト	情報処理技術者:ITストラテジスト	2		
	応用情報技術者	情報処理技術者:応用情報	2		
基本情報技術者	情報処理技術者:基本情報	1	(一財)職業教育・キャリア教育財団		
ITパスポート	情報処理技術者:ITパスポート	1			
情報検定(Ⅰ)検 情報活用試験 1級	情報検定:情報活用試験 1級	1	(一財)職業教育・キャリア教育財団		
情報検定(Ⅱ)検 情報活用試験 2級	情報検定:情報活用試験 2級	1			

情報工学科

項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
情報処理技術者	システム監査技術者	情報処理技術者:システム監査	2	(独)情報処理推進機構
	IT サービスマネージャ	情報処理技術者:IT サービスマネージャ	2	
	情報セキュリティスペシャリスト	情報処理技術者:情報セキュリティ	2	
	エンベデッドシステムスペシャリスト	情報処理技術者:エンベデッドシステム	2	
	データベーススペシャリスト	情報処理技術者:データベース	2	
	ネットワークスペシャリスト	情報処理技術者:ネットワーク	2	
	プロジェクトマネージャ	情報処理技術者:プロジェクトマネージャ	2	
	システムアーキテクト	情報処理技術者:システムアーキテクト	2	
	ITストラテジスト	情報処理技術者:ITストラテジスト	2	
	応用情報技術者	情報処理技術者:応用情報	2	
基本情報技術者	情報処理技術者:基本情報	1	(一財)職業教育・キャリア教育財団	
ITパスポート	情報処理技術者:ITパスポート	1		
情報検定(Ⅰ)検 情報活用試験 1級	情報検定:情報活用試験 1級	1		
情報検定(Ⅱ)検 情報活用試験 2級	情報検定:情報活用試験 2級	1		
情報検定(Ⅲ)検 情報システム試験 基本スキル	情報検定:基本	1		
情報検定(Ⅳ)検 情報システム試験 プログラミングスキル	情報検定:プログラミング	1		
情報検定(Ⅴ)検 情報システム試験 システムデザインスキル	情報検定:システムデザイン	1		
CGエンジニア検定 CG部門 1級	CG検定:1級	1	(公財)画像情報教育振興会	
CGエンジニア検定 CG部門 2級	CG検定:2級	1		

環境都市工学科

項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
測量士試験	測量士	4	国土地理院	[REDACTED]
測量士補試験	測量士補	2		
基礎製図検定試験	基礎製図検定	1	(公社)全国工業高等学校長協会	[REDACTED]
情報処理技術者 基本情報技術者	情報処理技術者:基本情報	1	(独)情報処理推進機構	[REDACTED]
ピオトップ計画管理士試験	ピオトップ計画管理士:2級	1	(公財)日本生態系協会	[REDACTED]
ピオトップ施工管理士試験	ピオトップ施工管理士:2級	1		
公害防止管理者1種試験	公害防止管理者:1種	3	(一社)産業環境管理協会	[REDACTED]
公害防止管理者2種試験	公害防止管理者:2種	1		
公害防止管理者3種試験	公害防止管理者:3種	2		
公害防止管理者4種試験	公害防止管理者:4種	1		
環境計量士試験	環境計量士	4	東京商工会議所	[REDACTED]
環境社会検定	eco 検定	1		

【備考】

- 成績表には、「特別学修 (実用検定:準2級)」「特別学修 (技術イベント活動:ロボコンI)」のように記載する。
- 資格の級・種の単位認定には、独立方式とする。危険物取扱者や公害防止管理者などは、実際に取得した種だけを独立して単位認定する。

資料「専門分野別セキュリティ教材 電気電子分野」

機器の不正操作

電子・電気



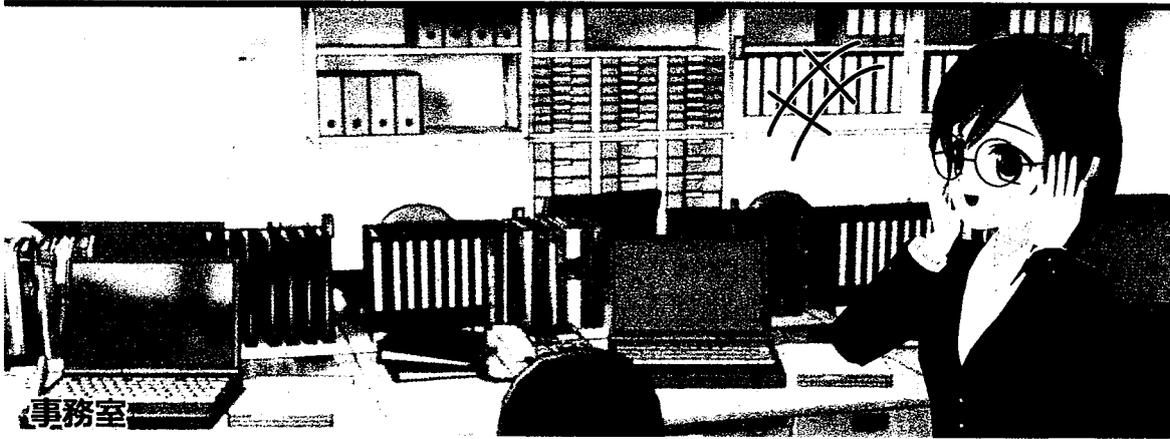
寮生であるあなたは、寄宿舎のエアコン運用方法に常々不満を抱いていました。エアコンの設定温度が、夏は28℃、冬は18℃に強制的に設定され変更できないため、夏は暑く、冬は寒く、大変暮らしにくいと感じていました。

機器の不正操作

電子・電気



ある日、寮の事務室へ用事があった時、その部屋の一角にエアコン集中制御装置が設置されていることに気がきました。



たまたま、その場にいた教職員が緊急の用事で全員事務室から退出していきました。そこであなたは装置に近付いて見たところ、その機器はタッチパネルで操作するようです。



そこで、少し設定を変更しても気付かれないし、そんなに影響が出ないだろうと思い、寮の設定温度を3度ほど変更しました。

今回のケースにおける問題点と解決策を、
ワークシートに記入してください。

記入し終わったら、「解答例を表示」ボタンをクリックしてください。



解答例を表示

何がよくなかったか？（問題点）

- ▶ 装置を操作する権限がないにもかかわらず、無断で設定を変更した。
- ▶ 部屋に学生を一人にしておいた。
- ▶ 少し設定を変更しても、影響が出ないと考えている。
- ▶ 制御装置が誰でも操作可能であった。
- ▶ 設定温度について話し合う機会を設けていなかった。

解説を表示

解決策

- ▶ 学校の設備を許可なく操作しない。
- ▶ 緊急事態であっても、部屋に学生を一人にしない。
- ▶ 安易な考えに基づいて行動せず、そのことが引き起こす結果について考えてみる。
- ▶ 入寮時に、禁止されている行為であることと、罰則について説明する。

解説を表示

Q 少し設定を変えても、影響がほとんどないのでは？

A 寮生の人数にもよるが、400人近い寮で、温度を1度変更するだけでも使用する消費電力に多大な影響を及ぼすことに考えが至らないことが問題である。

Q どんな迷惑がかかるのか？

A 契約電力は、当該月を含む過去1年間の各月の最大需要電力のうちで最も大きい値とされている。また、最大需要電力とは使用した電力を30分毎に計量し、そのうち月間で最も大きい値※をいう。つまり、契約電力量を超えたとき、そのピークに応じた月々の電気料金の基本料が跳ね上がり、それ以降はすぐには当時の契約電力料金には戻らない。よって、たった一人の勝手な行動が学校に金銭的負担を強いてしまう。そのため、本来は他のところで使用すべきお金が、電気料金として消えてしまう。(参考:東京電力HP)

Q 暑さ、寒さ対策をどうしたら？

A 快適に暮らせるよう、色々な工夫をしよう！冬は厚着をする。夏は薄着をし、水分をこまめに補給する。

出典「情報セキュリティ人材育成事業教材」

木更津高専における上級生ピアサポートを活用した 初年次工学教育の拡充

Expansion of first year grade engineering education with senior students' peer support
in National Institute of Technology, Kisarazu College

○ 錦山 智治^{*1} 浅野 洋介^{*1} 沢口 義人^{*1}
Tomoharu KAERIYAMA Yousuke ASANO Yoshihito SAWAGUCHI
渡邊 孝一^{*1} 石井 建樹^{*1}
Kouichi WATANABE Tateki ISHII

キーワード: 初年次工学教育, ピアサポート, アクティブラーニング
Keywords: First year grade engineering education, Peer support, Active learning

1. はじめに

木更津工業等専門学校ではカリキュラムの改定を行い、2017年4月より新しいカリキュラムを施行している。その中で、第1学年では技術者入門ⅠとⅡが、第3学年ではプロジェクト実習が新たに開講された。技術者入門は、各学科において低学年専門科目の導入教育を目的としたものである。この授業は、各学科共通して体験学習を通じて各専門分野に接するものとなっている。また、プロジェクト実習では、1年生のピアサポートとして専門的な課題の解決に取り組む体験をしつつ、リーダーとしての意識を高め、自ら学習する機会を得ることを目的としている。

今回、本校が設置している5学科の取り組みをそれぞれ紹介する。

2. 各学科の取り組み

2.1 機械工学科の取り組み

機械工学を学ぶ上で必要であろう数量的感覚の育成と、ものづくりをすること得られる気付きを中心に授業内容を設計した。

前期授業である技術者入門Ⅰの授業内容をガイダンス、報告書作成演習、体感実験、立体構造物の製作と破壊とした。体感実験は機械工学を学ぶ上で必要な感覚を養うきっかけとなるような実験を設定している。3年生はピアサポートとして1名もしくは2名で1つの実験テーマを担当する。立体構造物の製作と破壊では、実験班と同じ班員で耐荷重の計測を目的とした立体構造物をA4用紙で製作し、実際に耐荷重を計測する。この実験を通し、材質が同じであっても形状を変えることでその性能が大きく異なることを考えさせる。

後期授業の技術者入門Ⅱでは、前期の経験をもとに

与えられた課題を満足するものを実際に製作する。なお、この授業の目的は「製作物の完成」ではなく、ものづくりには様々な知識が必要であること、さらに工具などの管理やタイムマネジメントなど通し、各学生が自分自身の特性を理解することである。はじめに班ごとに実行計画を立案させたのち、実行計画に従いアイデア出しとその簡単な図面の作成を3週以内で行う。その後、実際にアイデアを形にし、14週までに報告書とプレゼンテーション資料を作成し、最終授業日にプレゼンテーションと実演を行う。

2.2 電気電子工学科の取り組み

1年間の講義内容を決定するにあたって STEM (Science, Technology, Engineering and Math) を意識して設計を行った。また、まず製作・実験してから原理を学ぶという従来とは逆のスタイルをとった。講義内容は、1年間で基本的なハードウェアを利用した電子回路製作ができるよう設計した。また、実験ごとにレポートもしくは発表を行い、Word や Excel, PowerPoint などの基本的なパソコンの使用方法を学ぶ。

技術者入門Ⅰでは課題として基礎から応用まで様々なものを設定した。課題には1年生が3～4名と3年生1名で班を構成し取り組む。最初は「LEDの点灯と破壊」を課題とした。意図的に破壊することで安全意識を持たせることを狙った。次に、LEDとスイッチを使った簡単な回路を課題として提示し、回路や必要部品は自ら調査させた。その後、モータやスピーカを使用する応用的な課題とした。

技術者入門Ⅱでは、前期で扱わなかったセンサを使用する課題に取り組む。その後、これらの課題を踏まえて、「製作実習」として与えられたテーマに沿った製作物を製作する。さらに、製作物に対するポスター

^{*1} 木更津工業高等専門学校

とレポート作成も行う。

2.3 電子制御工学科の取り組み

制御工学を中心として電気電子・機械・情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し応用できる技術者の育成を目的とした授業設計とした。また、各実習は、4名程度の班単位での活動とし、ピアサポートとして各班3年生1名を割り当てている。

技術者入門Ⅰのガイダンスとテストキット製作実習、ミニロボコンを行う。テストキット製作実習では、4回の授業で市販のテストキット PC20TK(三和電気計器株式会社)を1人1台ずつ組み立て、基礎的な活用法を学ぶ。この実習を通して電子工作の技術やテスト使用法を身に付ける。ミニロボコンでは、Mindstorms EV3(LEGO社)の基本セットとMindstorms NXT(LEGO社)の拡張セットをそれぞれ1班に1セットずつ与え、課題を達成できるようにロボット機体を組み立て、プログラムを作成する。このミニロボコンにより、センサやアクチュエータ、プログラミングなどの基礎を学ぶとともに、班内で協調して作業を進めるコミュニケーション能力を養成する。

技術者入門Ⅱでは、10回程度の授業でライントレーサを各学生が1台ずつ製作する。このライントレーサの製作により、ミニロボコンではモジュール化されていたセンサやアクチュエータの動作をより細かい単位で把握し、電子制御技術の考え方を身に付ける。その後の4回の授業では直流安定化電源やオシロスコープなどの基本的な装置の取り扱いを学ぶ。

2.4 情報工学科の取り組み

情報を創る、測る、加工する、伝えるという学科の学習目標を、学問という括りに縛られることなく自由に、柔軟に体感することを目的として設計している。3年を3～4名の1年生グループに割り当てると同時に、3年生グループを構成して1年生グループの模範とすることで見て学ぶ姿勢の育成効果も期待したピアサポート体制を敷いた。

技術者入門Ⅰでは、情報を伝えることの重要性を学ぶためのアイスブレイキングを初回に実施し、同時に集団他者の理解を深める。残りの時間すべてで、情報を創る楽しさを得るために事前知識や技術が不要な範囲での動くオブジェクトの設計製作を実施する。基本的にグループ活動とし、設計製作まで自分たちで考えて実装まで行う。最終的に、何をどういう手順で進めたかをまとめて発表することで、思考力と試行力の発見に基づく情報創生の初歩を集団で共有する。

技術者入門Ⅱでは、情報の計測および加工に必要な計測装置や基本素子(ブレッドボードやLED、スイッ

チ)の基本的な構造と使い方を学ぶ。当たり前という概念を廃し、既知の素子でもまずは測らせる。得られたデータからどういうものであるかを考え、クラス全体で発見過程を共有する。計測の可能性を教示することで未知の事象に対する計測の敷居を下げることも目的としている。後半はそれらの素子を用いて、汎用マイコン Arduino を用いた簡単な情報加工の実験を行い、既存の情報デバイスの初歩的な知識と技術を体感する。

2.5 環境都市工学科の取り組み

授業設計にあたっては、1)建設に関する一連の体験ができること、2)初学者でも実践できる難易度であること、3)上級生が既に習った内容が基礎にあること、4)廃止科目の内容が網羅されていると、を重視した。

技術者入門Ⅰでは新入生に対する講義として、既存のテキストにとらわれずに、身体や身近な物の寸法を計測させることで数量的感覚を身に付けさせる講義、図面と三角スケールを用いた計測精度や縮尺に関する講義、直接計測できない対象の計測方法、幾何学的な測定の基礎式導出、平面図、等角投影図、透視投影図の作図に関する講義と自学自習を取り入れた。作図については2冊のテキストを指定して自ら学ばせる形態とした。ピアサポートは、自らの専門知識と照らして、理解や課題達成のための支援を行う。その後は、4名程度のグループ学習として、校舎の測量を実施して三次元図面を製作する課題とした。まず、実際に作成可能な測量器具を自作し、それらの器具を用いて測量を繰り返すと同時に、計測精度を検証させる。そして、測量結果に基づいて三次元図面を製作する。

技術者入門Ⅱでは、測量結果や三次元図面を用いて校舎の模型を製作させる。このとき、グループ編成を変更することで、再測量などの必要性に気づかせる。また、実建造物の施工手順や品質管理(QC)について講義をすることで、模型製作における気づきを促す。

最後に、測量から模型製作までの一連の作業を通じて、留意点を含めたマニュアルづくりを課題とする。ここでは、コンピュータを使用することを前提として、今後の多用するレポート作成における基礎的な約束事を徹底させる。これらが徹底されない場合には再提出を求めることとし、そのために十分な作業期間を設ける授業設計である。

3. おわりに

本校の低学年専門科目導入教育授業である技術者入門Ⅰと技術者入門Ⅱ、3年生のプロジェクト実習の概要を紹介した。概ね期待通りの教育効果が得られていたが、その一方、効果的なリベラルアーツ教育の必要性という課題が明らかとなった。

資料「技術者入門の授業計画」

1. 班編制

授業時間：火曜 5、6 限

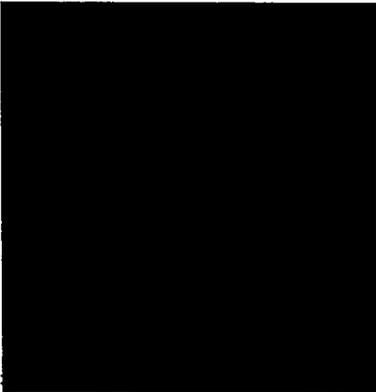
11 班編制

1 年生 41 名

3 年生メンバー 11 名



1 班：
2 班：
3 班：
4 班：
5 班：
6 班：
7 班：
8 班：
9 班：
10 班
11 班



2. 授業方針

- 火曜 5、6 限の 2 コマで実施し、7 限に次週の予習会を開催する。
- 本授業としては 1 単位だが、来年度、再来年度に少し手伝ってくれば 1 単位（計 2 単位）認定する予定。
- 評価は、毎週班員に書かせる報告書と、レポート(もしくは発表)で行う。
- 班員は後期で変更するかも（？）
- 4、5 年生にチューターを依頼予定（分からないことがあったら、先輩に頼りましょう）
- リーダー同士で協力して進める。

3. スケジュール

前期

週	内容	補足
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 1. 授業説明 2. リーダー・教員紹介 3. 班内での自己紹介 4. LEDの点灯と破壊 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 片付け時の電池取扱いの注意 ▶ そうじ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・電流計と電圧計を使ったオームの法則実験 	▶ カラーコード表配布
3	1. オームの法則の説明	
4	<ul style="list-style-type: none"> 2. 電流計のレンジを考慮した抵抗の選択 (カラーコード) 3. 電流計・電圧計の使い方の説明 4. 1つの抵抗回路、2つの抵抗の直列回路、2つの抵抗の並列回路を測定 5. グラフ用紙へのプロット 6. 各回路の直線の傾きを考察 7. Excelを使ってオームの法則のグラフを作成 (直列・並列接続の計算練習) 8. PowerPointを使って発表資料作成 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・はんだ実習 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 1. はんだの使い方の説明 2. ユニバーサル基板に抵抗をはんだで実装 1. 配線同士のはんだづけ 3. SW (タクト、トグル、スライド) の仕様をデジタル等で調べ、それらを使ってLEDを点灯 4. 各班にSWとLEDの制御のテーマの割り振り(課題1-1) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・SWとLED (課題1-1) 1. 第6週で決めたテーマ(課題1-1)の取り組み 2. 課題1-2のテーマの割り振り 	
8	中間試験	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・SWとLED (課題1-2) 	
10	<ul style="list-style-type: none"> 1. 第7週で決めたテーマ(課題1-2)の取り組み 2. 課題2のテーマの割り振り 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・モータとスピーカの制御 (課題2) 	
12	<ul style="list-style-type: none"> 1. モータとスピーカの制御 2. センサのテーマ(課題3)を班に割り振り 3. センサについての調査 	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・センサの制御(課題3) 	14週目にレポート課題を与える
14	1. センサの制御	
15	課題提出	

後期

週	内容	補足
1 (10/02)	・ガイダンス 班内での自己紹介 センサの話題 (圧力, 光, 磁気, 加速度)	
2 (10/16)	センサ実習	
3 (10/23)		
4 (10/30)	プロジェクト説明	
5 (11/06)	企画検討	
6 (11/13)	プロジェクト実習	
7 (11/20)	中間審査	
8 (11/27)	中間試験	
9 (12/04)	プロジェクト実習	
10 (12/11)		
11 (12/18)	実演発表会	
12 (1/08)	ポスター製作	
13 (1/15)	レポート作成	
14 (1/29)		
	期末試験	
15 (2/12)	ポスター・レポート提出	

4. 課題内容

■課題 1-1 (一週) : 1 テーマにつき 2~3 班

- ・ 2 個/4 個の LED 点灯
- ・ LED の明るさ調整(離散的)
- ・ LED の明るさ調整(連続的)
- ・ スイッチを押すと LED 消灯
- ・ 2 個のタクトスイッチ同時押し/どちらかで LED 点灯

■課題 1-2 (二週) : 1 テーマにつき 2~3 班

- ・ スイッチを ON した x 秒に LED 点灯
- ・ 2 個のトグルスイッチで LED の点灯・消灯
- ・ 1 個の LED 点滅
- ・ 2 個の LED 点滅
- ・ 7 セグメント LED 点灯

■課題 2 (二週) : 1 テーマにつき 2~3 班

- ・ モータの速度を変える(連続的)
- ・ モータの速度を変える(離散的)
- ・ スイッチでモータの回転方向を変える

- ・モータ発電してLEDを点灯させる

■課題3(二週):1テーマにつき2~3班

- ・光センサ GL5528
- ・磁気リードスイッチ MKA-10110
- ・圧力センサ FSR402
- ・3軸加速度センサモジュール KXSC7-2050
(・高精度IC温度センサ LM35DZ(?))

5. プロジェクト課題の検討

- ・昔のおもちゃを電子化する(2018年度予定)

6. その他

- ・3年生の補講対策:グラント先生が補講を入れる(担当は岩崎先生)
- ・3年生の特別研究が1時間であるため、2時間目は空きコマするように教務委員に連絡する。
- ・顔合わせの日程:火曜日の授業で連絡→放課後に調整

資料「第12回大学対抗・情報危機管理コンテスト受賞記事」

出典「木更津工業高等専門学校 Web サイト」

資料「実践力を育む教育方法の実施状況がわかる資料」

情報セキュリティ人材育成事業 ～木更津高専における活動～

(独)国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校 校長 佐藤 隆

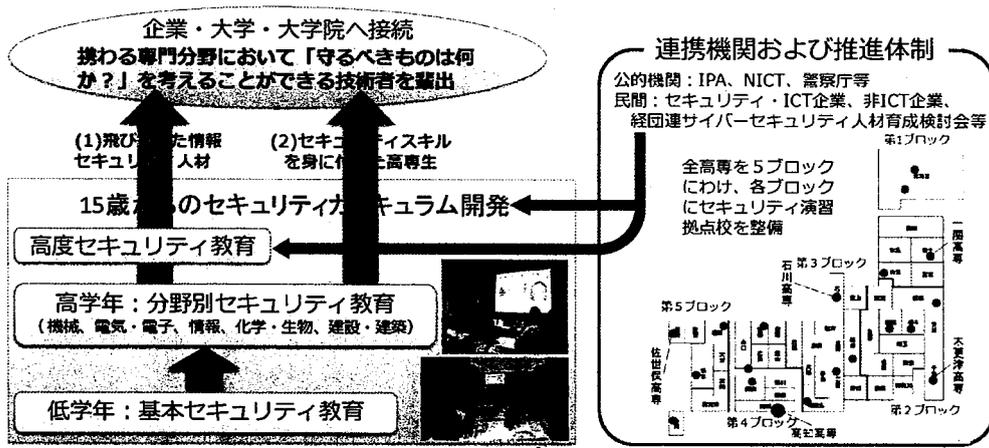
情報セキュリティ人材育成事業の背景

- いまや社会インフラとなったインターネットでサイバー攻撃のリスクが増大
- さらなる経済社会の発展のためにはサイバー空間の安全確保が不可欠
- さらに、あらゆるモノがネットワークでつながる時代には、分野を問わず技術者としてのセキュリティスキルが求められる
- 不足するセキュリティ人材育成が課題

情報セキュリティ人材育成事業

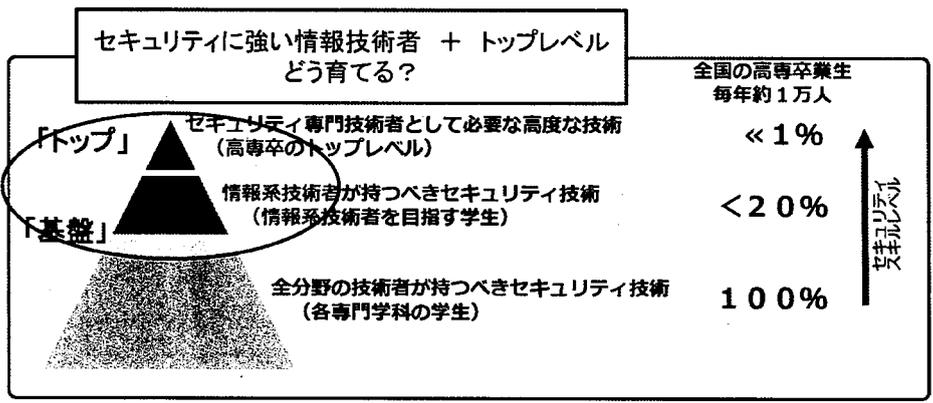
セキュリティスキルを持った実践的な人材を、早期教育で継続的に輩出する仕組みづくり

- (a) 飛び抜けた情報セキュリティ人材
- (b) セキュリティに強い情報技術者
- (c) セキュリティスキルを身につけた高専生（全専門学科で）



K-SEC事業

携わる専門分野において「守るべきものは何か？」を考えることができる技術者を輩出

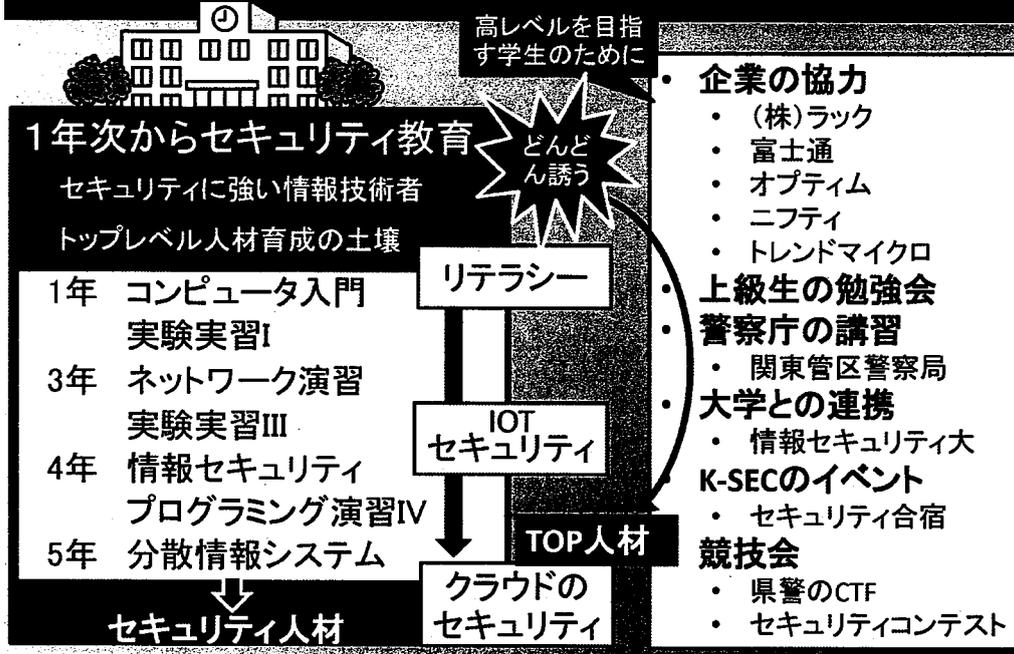


すべての高専生にセキュリティスキルを！

↓

セキュリティスキルを持った技術者によるものづくり

木更津高専（特に情報工学科）の取組



K-SEC事業

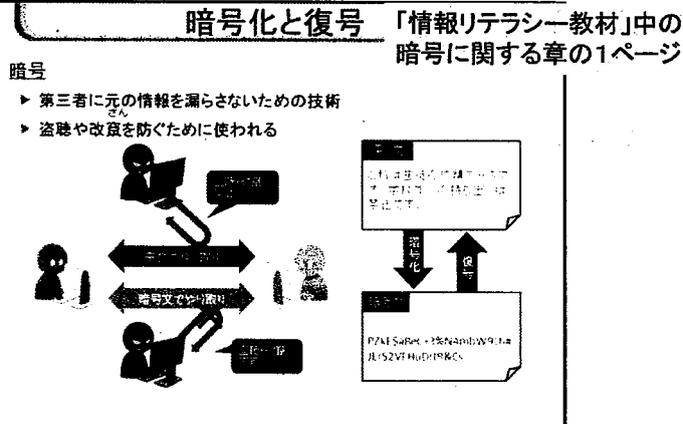
作成した教材

授業で使える
パワーポイント教材

自習が可能な
動画

確認試験問題

例えば



平成30年6月21日

教科主任, 学科主任 各位

FD推進委員会

委員長 [REDACTED]

平成30(2018)年度「教科と学科の情報交換会」の実施について(依頼)

FD活動の一環として、従来から実施しております表題の懇談会を本年度も実施します。つきましては以下の実施予定表を参照のうえ、各教科・各学科間にて日程を調整され、実施していただきますようお願い致します。

教科/学科	M科	E科	D科	J科	C科
数学	2022年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
物理・化学	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度
英語・ドイツ語	2021年度	2022年度	2018年度	2019年度	2020年度
国語・社会	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度	2019年度
体育	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度

なお、実施に際しては必ず議事要旨を作成し、実施期間内にFD推進委員長までお送りいただきますようお願い致します。参考までに昨年までの懇談会に関する議事要旨が教職員ローカルウェブサイトに掲載されております(メニュー>FD>キャビネット>教科と学科の懇談会)。

情報交換会の内容につきましては、基本的に各教科・各学科の裁量にお任せ致します。ただし、以下の観点を必ず含んでいただきますようお願い致します。

- 低学年教育(学生の学力状況や授業態度等)
- 新カリキュラムにおける一般科目と専門科目の関連内容の確認
- 一般科目と専門科目の授業進捗の確認

本件に関しご不明な点がございましたら、FD推進委員長までお問い合わせ願います。

以上

出典「木更津高専学生課資料」

資料「成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知していることがわかる資料」

卒業までに卒業の条件（19参照）に定められた単位数以上を必修科目と合わせて修得する必要があります。

選択科目の履修については、必ず選択科目履修願を学級担任経由で学生課教務係に提出してください。履修申告の時期は、後期開講科目は7月、次年度前期・通年開講科目は1月です。

また、やむを得ず選択科目を変更する場合は、授業開始後2週間以内に選択科目履修変更願を科目（追加科目及び辞退科目）担当教員に提出しなければなりません。

※選択科目を選ぶ場合は、それぞれの学習目的や将来の進路を十分考慮に入れて、履修変更や途中棄権がないようにしてください。

1-5 成績の評価

学業の成績は、科目担当教員が試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して100点法によって評価します。また、学生指導要録には評点に対応した評定が記録されます。評点と評定の関係は次のとおりです。

【基準】

評定	評点	基準（到達レベル）
A	80点～100点	十分に満足できる到達レベル
B	70点～79点	標準的な到達レベル
C	60点～69点	単位取得可能な最低限の到達レベル
D	60点未満	単位取得不可の到達レベル

評価が評点60点以上（評定C以上）である場合に科目を修得でき、単位修得が認められます。

評点60点未満（評定D）の場合は未修得となり、その科目は未修得科目となり単位の修得は認められません。また、科目の授業時間数の3分の1以上欠席した場合、その評点は原則として60点未満（評定D）となり、単位の修得は認められません。

1-6 試験

試験には、定期試験・中間試験があり、次の方法で実施しています。

定期試験は前期末と学年末に、中間試験は、前期・後期の中間の時期にそれぞれ1回ずつ実施します。各試験の時間割は試験日の2週間前に掲示します。必ず確認してください。

なお、試験日にやむを得ない事由により試験を受けられなかった学生は、願い出により追試験を受けることができます。

ここで、やむを得ない事由とは、

- (1) 学則第24条の規定による伝染病その他の疾病による出席停止
- (2) 学生準則第15条の規定により、他の学校に入学、転学または編入学を希望して受験することを許可された場合
- (3) 就職または進学のための受験、夏季学外学習への参加、個人または学友会諸団体の学外

資料「卒業認定基準の周知を図る取り組みの内容がわかる資料」

目担当教員により日時・方法等がそれぞれ違いますので事前に科目担当教員と連絡をとってください。

1-9 修了の条件、留年、仮進級、卒業の条件

修了とは、学年を修了し上の学年へ進級できることを意味し、修了の認定は学年末の成績審査会議で行われます。また、途中で退学し進路を変える学生のために、その学年の課程修了の認定も別にあります。

(1) 修了の条件

その学年末までに履修すべき必修科目のうち、未修得科目の単位数の合計が規定の数以内であること（必修科目未修得単位の条件表及び5-2 学業成績審査規程第5条を参照）。さらに、特別活動（通称ホームルーム）や学校行事の出席状況等が考慮されます。具体的には、やむを得ない事由（1-6 参照）によらずまたは無届けで、特別活動を3分の1以上欠席した者や学校行事の欠席を繰り返した者について、進級を認定しないことがあります。

(2) 留年

修了の認定を受けられずに現在の学年に留まることです。

留年者のうち評定 C 以上の科目は、既修得となりますので授業を受講する必要はありません。ただし、修得済の科目に対してより高い評価を得るために、願い出により再履修（1-8 再履修(2)通常授業による）することもできます。（留年者の再履修）（学業成績審査規程第5条を参照）

(3) 仮進級（第2学年以下の特別措置）

修了の認定が受けられない学生でも、第2学年以下に限り特別な措置があります。それは、成績審査会議において、未修得科目に関し、平常の授業で必要な学習の努力を怠っていないと確認された学生のうち、

① 未修得単位数が6を大きく超えていない学生

② 欠席時数が非常に少ない学生

に適用されます。①かつ②に当てはまると認定された学生は、修了が保留されたまま仮進級となります。

仮進級制度では、やむを得ない事由（1-6 参照）に該当する場合の欠席は、欠席時数に含まれませんので、必ず欠席届（2-3 参照）を学級担任経由で学生課教務係に提出してください。また、事前に手続きができなかった場合は、事後すみやか（2週間以内）に手続きを行ってください。

2年あるいは3年へ仮進級した学生は、再履修（再試験を含む）を経て評価の結果、未修得単位数が、2年は6以内、3年は4以内になると、その学年の修了が認定されますので、再履修願を提出してください。

(4) 卒業の条件

卒業時において

① すべての必修科目を修得していること。（未修得単位数の条件及び学業成績審査規程

第6条を参照)

- ② 全修得単位数が167単位以上で、そのうち、一般科目の修得単位数が75単位以上で、専門科目の修得単位数が82単位以上の両項目を満たした場合に卒業の認定を行います。

必修科目未修得単位数の条件

第1学年修了	6単位以内
第2学年修了	6単位以内
第3学年修了	4単位以内
第4学年修了	3単位以内
卒業	0単位

1-10 休学、復学、退学

病気や一身上の都合等により休学・復学・退学をする場合は、保護者や学級担任と相談し、慎重に手続きを行ってください。

(1) 休学と復学

病気やその他の理由により、3ヶ月以上継続して就学することができない見込みの場合、医師の診断書あるいは、理由書を添えた休学願を学級担任経由で学生課教務係に提出し、1年以内に限り休学が許可されます。ただし、特別の理由がある場合には、さらに1年を限度として休学を延長することができます。

病気等の休学の理由が消滅したときは、学級担任を経て復学願を提出して、学業に復することができます。

(2) 退学

経済的その他の理由で学業継続が困難となり、やむなく退学しなければならない場合には、理由を記して退学願を学級担任経由で学生課教務係へ提出します。

なお、退学に当たっては、学生証や借用図書返納、またその年度の授業料等の未納金の精算を行わなければ、退学は許可されません。

その他、転科・転学・留学・他校受験等については、学生課教務係に問い合わせてください。

1-11 特別学修

特別学修とは、選択科目として一般科目と専門科目の両方に開設された授業科目です。履修数に上限はありませんが、一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修(1-12及び学則第13・14条を参照)を合わせて最大30単位を修得単位として、そのうち10単位を本科卒業の単位として認定することができます。特別学修は他の科目と大きく異なる部分もあるため、その履修方法等について以下に示します。

(1) 技能審査・資格試験等

令和2年度 入学者募集要項

推薦 入学 者選 抜	願書受付期間	令和2年1月8日(水)～令和2年1月10日(金)
	適性検査・面接	令和2年1月22日(水)10:30
	選抜結果の発表・通知	令和2年1月24日(金)13:00
	入学確約書の提出期限	令和2年1月29日(水)16:00
学力 入学 者選 抜	願書受付期間	令和2年1月28日(火)～令和2年1月30日(木)
	学力検査	令和2年2月16日(日)9:00～15:30
	選抜結果の発表・通知	令和2年2月19日(水)10:00
	入学確約書の提出期限	令和2年2月25日(火)16:00
	本校第2志望者選抜	令和2年3月9日(月)10:00
	本校第2志望者選抜結果発表	令和2年3月9日(月)16:00
帰国 子女 特別 選抜	願書受付期間	令和2年1月28日(火)～令和2年1月30日(木)
	学力検査・面接	令和2年2月16日(日)9:00～15:30
	選抜結果の発表・通知	令和2年2月19日(水)10:00
	入学確約書の提出期限	令和2年2月25日(火)16:00

本校のアドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術及び英語など外国語にも興味・関心がある人
2. 自ら考え、様々な課題に意欲を持って取り組む実行力を身に付けたい人
3. 社会のルールを尊重し、学業や課外活動、学校行事などの学生生活を積極的に送ろうとする人
4. コミュニケーション能力と協調性を有し、指導的立場に立つ技術者として社会の発展に貢献したい人

人

令和 2 年度入学者募集要項

入学者の選抜は、調査書・推薦書・面接・適性検査に基づく「推薦入学者選抜」と、学力検査・調査書に基づく「学力入学者選抜」および「帰国子女特別選抜」によって行います。

1. 募集人員

学科名	入学定員	うち、推薦入学者
機械工学科	40名	20名程度
電気電子工学科	40名	20名程度
電子制御工学科	40名	20名程度
情報工学科	40名	20名程度
環境都市工学科	40名	20名程度

2. 選抜方法

推薦入学者選抜

[1] 出願資格

推薦入学者選抜に出願できる者は、次のすべての条件を満たし、かつ、在籍学校長の責任ある推薦を受けた者としてします。

1. 令和 2 年 3 月に中学校もしくは義務教育学校卒業見込みの者、中等教育学校の前期課程を修了見込みの者、または文部科学大臣が中学校の課程と同等課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了見込みの者で、出身中学校長の推薦を得た者
2. 人物、健康ともに優れ、当該学科を希望する動機・理由等が明確・適切である者
3. 理工学への適性を持ち、かつ自発的・継続的・協調的な学習能力を有する者（具体的には、5 段階評定において 9 教科（国・社・数・理・英・音・美・体・技）の評定が 3 以上、かつ 2 学年および 3 学年のいずれについても 9 教科の評点総計が 32 以上である者）
4. 合格した場合は、必ず入学する意志を有する者

[2] 入学願書受付期間および提出場所

受付期間

令和 2 年 1 月 8 日（水）～令和 2 年 1 月 10 日（金）

受付時間 9:00 ～ 16:30

※郵送の場合は、1 月 10 日（金）16:00 必着のこと。

提出場所木更津工業高等専門学校

学生課教務係

〒 292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1

TEL 0438-30-4040

※郵送の場合は必ず「簡易書留」とし、封筒の表に「推薦選抜願書在中」と朱書してください。

[3] 出願手続き出願に必要な書類

書類	備考
入学願書・写真票・受験票	本校所定の用紙に必要事項を記入すること。 写真票の写真は、令和元年12月以降に撮影したもの（正面上半身脱帽、縦4cm×横3cm）を貼付すること。
調査書※	千葉県内中学校からの志願者 令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜のために作成した調査書をコピーしたものに、出身中学校長が証明し、厳封したもの 千葉県以外の中学校からの志願者事前に本校学生課教務係に照会のこと。
学習成績分布表・個人成績一覧表※	各都道府県指定の様式で「学習成績分布表」および「個人成績一覧表」に出身中学校長が証明したもの（1校につき1部）
推薦書	本校所定の用紙を用い、出身中学校長が作成し厳封したもの
検定料	16,500円 本校所定の振込依頼書に住所・氏名を記入し、振込期間内に金融機関で納付し、振込受付証明書を検定料振込受付証明書貼付用紙に貼付して提出のこと。
返信用封筒 (郵送での出願者のみ)	レターパックもしくは長形3号(23.5cm×12cm)封筒に374円分(定型・速達料金)の切手を貼付したものに、志願者の郵便番号・住所・氏名を明記する。

出願上の注意事項

1. 出願手続き後は、希望学科の変更および記載事項についての変更を認めません。
2. 提出書類は返還しません。

※調査書および学習成績分布表・個人成績一覧表は、中学校からの別送による提出も可能です。

[4] 選抜の方法

出身中学校長から提出された推薦書・調査書・適性検査および面接による評価の結果を総合的に判定します。適性検査は、中学で学ぶ基礎的な数学問題に対して解答してもらいます。

[5] 検査日時および検査会場

年月日	時間	区分	検査会場
令和 2年 1月 22日 (水)	10:30	受験者集合	木更津工業高等専門学校（千葉県木更津市清見台東 2-11-1）
	10:50～11:50	適性検査	
	12:00～13:00	休憩	
	13:00～	面接（1名 10分程度）	

検査には、受験票・筆記用具（鉛筆もしくはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削りに限る）を持参してください。

[6] 選抜結果の発表・通知

推薦入学者選抜の結果、合格者については、令和 2年 1月 24日（金）13:00 に発表します。

発表方法

1. 本校学生課に掲示
2. ウェブサイトに掲載（URL は志願者に別途通知）
3. 合格通知書を本人宛に速達にて郵送（1月 24日 13:00 以降発送）また、出身中学校長には、受験者の選抜結果一覧表を郵送します。電話等による問い合わせには一切応じられません。

[7] 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、令和 2年 1月 29日（水）16:00 までに、本校所定の入学確約書を提出してください。入学確約書の用紙は合格通知書と共に郵送します。なお、期限までに入学確約書を提出しない者は、入学の意志がないものとみなし、合格を取り消します。

入学確約書を提出した者に対して、入学に必要な書類を郵送します。

※郵送の場合も、令和 2年 1月 29日（水）16:00 必着とします。

[8] 「推薦入学者選抜」で合格とならなかった者の「学力入学者選抜」もしくは「帰国子女特別選抜」の受験

「推薦入学者選抜」の結果、合格とならなかった者は、「本校第 1 志望者」（6 ページを参照）として「学力入学者選抜」、もしくは「帰国子女特別選抜」を受験することができます。なお、この場合は出願書類の再提出および検定料の再納入の必要はありません。

「学力入学者選抜」もしくは「帰国子女特別選抜」を希望する場合は、推薦選抜出願時に、次の事項をあらかじめ「入学願書・受験票・写真票」の所定の欄に記入してください。

1. 「選抜区分」欄の推薦と学力もしくは推薦と帰国子女の 2 箇所の番号を○で囲んでください。

2. 「学力入学者選抜」については、千葉県以外に在住等で本校での受験が困難な場合、越中島検査会場で受験することができます。学力検査会場について、どちらか1ヵ所を選び、「学力検査会場」欄の番号を○で囲んでください。
3. 希望学科は、第3希望まで選抜の対象としますので、希望者はあらかじめ「希望学科」欄に記入してください。なお、第2, 第3希望がない場合は、斜線を引いてください。

[9] 検定料免除の臨時措置及び検定料の返還請求について

検定料免除の臨時措置

本校に入学を志願する者で、令和元年度に、その主たる家計支持者の居住地が災害による被災に伴い災害救助法の適用を受け、居住する家屋が被害を受けた場合には、検定料が免除になる場合があります。該当すると思われる場合は、検定料の納入を行う前に学生課教務係へお問い合わせください。

検定料の返還請求

納付された検定料の返還請求ができるのは、次の場合です。該当する場合は、学生課教務係へお問い合わせください。

- 検定料を納付したが出願しなかった場合
- 検定料を重複で納付した場合

[10] その他の注意事項

1. 受験票の裏面および願書受付の際に配付する「入学志願者受験心得」をよく読んでおいてください。
2. 昼食は各自用意してください。
3. 上履きは必要ありません。
4. 受験のための宿舍の斡旋は行っておりません。
5. 身体に障害がある場合や疾病、けが等で受験上特別な措置や、修学上特別な配慮を必要とする入学志願者は、事前に本校学生課教務係へご相談ください。

学力入学者選抜

[1] 出願資格

学力入学者選抜に出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

1. 中学校または、これに準ずる学校を卒業した者（令和 2年 3月卒業見込みの者を含む）
2. 義務教育学校を卒業した者（令和 2年 3月卒業見込みの者を含む）
3. 中等教育学校の前期課程を修了した者（令和 2年 3月修了見込みの者を含む）
4. 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第 95条の各号のいずれかに該当する者または令和 2年 3月該当見込みの者を含む）

[2] 入学願書受付期間および提出場所

受付期間

令和 2 年 1 月 28 日 (火) ~ 令和 2 年 1 月 30 日 (木)

受付時間 9:00 ~ 16:30

※郵送の場合は、1 月 30 日 (木) 16:00 必着のこと。

提出場所木更津工業高等専門学校 学生課

教務係

〒 292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1 TEL 0438-30-4040

※郵送の場合は必ず「簡易書留」とし、封筒の表に「学力選抜願書在中」と朱書してください。

[3] 出願手続き出願に必要な書類

書類	備考
入学願書・写真票・受験票	本校所定の用紙に必要な事項を記入すること。 写真票の写真は、令和元年 12 月以降に撮影したもの（正面上半身脱帽、縦 4cm×横 3cm）を貼付すること。
調査書*	千葉県内中学校からの志願者令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜のために作成した調査書をコピーしたものに、出身中学校長が証明し、厳封したもの 千葉県以外の中学校からの志願者事前に本校学生課教務係に照会のこと。
学習成績分布表・個人成績一覧表*	各都道府県指定の様式で「学習成績分布表」および「個人成績一覧表」に出身中学校長が証明したもの（推薦選拔出願と合わせ 1 校につき 1 部）
検定料	16,500 円 本校所定の振込依頼書に住所・氏名を記入し、振込期間内に金融機関で納付する。振込受付証明書を検定料振込受付証明書貼付用紙に貼付して提出のこと。
返信用封筒 (郵送での出願者のみ)	レターパックもしくは長形 3 号 (23.5cm × 12cm) 封筒に 374 円分 (定型・速達料金) の切手を貼付したものに、志願者の郵便番号・住所・氏名を明記する。

出願上の注意事項

1. 出願手続き後は、希望学科の変更および記載事項についての変更を認めません。
2. 提出書類は返還しません。

3. 学力検査は、千葉県以外に在住等で本校での受験が困難な場合、越中島検査会場で受験することができます。学力検査会場について、どちらか1ヵ所を選び、「入学願書・写真票・受験票」の「学力検査会場」欄の番号を○で囲んでください。
4. 第3希望学科まで選抜の対象としますので、希望者は「入学願書・写真票・受験票」の「希望学科」欄に記載してください。なお、第2, 第3希望がない場合は、斜線を引いてください。

※ 調査書および学習成績分布表・個人成績一覧表は、推薦選抜・学力選抜合わせて1部提出ください。中学校からの別送による提出も可能です。

本校第1志望の選択

入学願書提出時に本校を第1志望とするか否かを選択していただきます。以下、本校第1志望とする者を本校第1志望者、他校を第1志望とする者を本校第2志望者とします。「入学願書・写真票・受験票」の所定欄の番号を○で囲んでください。

[4] 選抜の方法

本校第1志望者

上位50名は学力検査の成績のみ、それ以下は学力検査の成績と出身中学校長から提出された調査書に基づいて順位付けし、学科ごとにその学科の第1希望者を優先し上位より20名程度（全学科で100名程度）を合格者とします。なお、末尾において第2～第3希望学科へのスライド合格の場合があります。

本校第2志望者

全学科合わせた本校第1志望者の上位50名と同等以上の学力検査の成績の者を第2次選抜（面接）の対象者とし、後日実施される面接後に合格者（若干名）を決定します。（[8]参照）

[5] 学力検査の教科・日時および検査会場

年月日	時間	教科	検査会場
令和2年 2月16日 (日)	9:30～10:20	理科	1. 本校 (千葉県木更津市清見台東 2-11-1) 2. 越中島 東京海洋大学越中島キャンパス (東京都江東区越中島 2-1-6)
	10:40～11:30	英語	
	11:50～12:40	数学	
	13:30～14:20	国語	
	14:40～15:30	社会	

受験生は、9時までに集合してください。

検査は、全教科マークシート方式での解答になります。

受験票、筆記用具（**HB**の鉛筆、消しゴム、鉛筆削りに限る）を持参してください。

[3] ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

本校では、準学士の称号にふさわしい実践的・国際的エンジニアとして、以下に示す能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

本科共通

1. 自らの専門とする科学技術について基礎学力、基礎的な知識、関連する知識・技術、応用力を身につけて、それらを活用できる（応用的な問題の解決ができる）。
2. 修得した知識や技術をもとに各専門分野における問題発見、問題解決及びプレゼンテーションができる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

各学科のディプロマポリシー

本科共通に加えて

機械工学科

機械工学に関連する基礎学力、基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用して問題を解決できる。

電気電子工学科

電気電子工学分野における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、その知識・技術を応用する力を身につける。

電子制御工学科

制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを応用できる。

情報工学科

情報技術を身につけた人。

環境都市工学科

構造工学、建設材料学、地盤工学、水工学、衛生工学、生態学、測量学、情報処理技術に関する基礎的な知識、技術、応用力を身につけ、活用することができる。

令和元年度 電子制御工学科 5年 卒業研究 最終発表

2020.01.29 PM03:40

日時 : 令和2年2月19日(水)

20日(木) 場所 階段教室

発表研究室	開始時間	終了時間	テーマ	学生氏名	
1日目: 令和2年2月19日(水)					
セクション	担任	9:00 ~ 9:05	出席確認, 諸注意		
		第1セッション 司会: []	タイムキーパー: [] (岡本研)		
		第2セッション 司会: []	タイムキーパー: [] (奥山研)		
		第3セッション 司会: []	タイムキーパー: [] (坂元研)		
		第4セッション 司会: []	タイムキーパー: [] (泉研・大橋研)		
1	[] 研究室	9:05 ~ 9:17	D-01	小型サーバ用UPの製作	[]
		9:17 ~ 9:29	D-02	エフェクタとオペアンプの特性の相関評価	[]
		9:29 ~ 9:41	D-03	自動追尾水中ロボットの作製	[]
		9:41 ~ 9:53	D-04	フィルタ統合型2周波共用マイクロストリップアンテナ	[]
		9:53 ~ 10:05	D-05	ディスクリートオペアンプの製作と評価	[]
	[] 研究室	10:05 ~ 10:17	D-06	ラズベリーパイを用いた顔認証学習	[]
		10:17 ~ 10:29	D-07	球面型超音波モータの動作アニメーション作成	[]
		10:29 ~ 10:34		休憩	
2	[] 研究室	10:34 ~ 10:46	D-08	ラズベリーパイを用いた教材開発	[]
		10:46 ~ 10:58	D-09	IEEE1888変換ボードによる環境情報計測システムの開発	[]
		10:58 ~ 11:10	D-10	研究室の行先表示板の開発	[]
		11:10 ~ 11:22	D-11	画像解析を用いた自動出席確認システムの開発	[]
		11:22 ~ 11:34	D-12	認知検出クリッカーの開発	[]
		11:34 ~ 11:46	D-13	KeTCindyによる自習教材の開発	[]
		11:46 ~ 13:00		食事休憩	
3	[] 研究室	13:00 ~ 13:12	D-14	電気化学堆積した酸化亜鉛ナノロッドの成長過程の観察	[]
		13:12 ~ 13:24	D-15	電気化学堆積した酸化亜鉛ナノロッドにおけるシード層の効果	[]
		13:24 ~ 13:36	D-16	Micro:bitによるペルチェ素子の温度制御	[]
		13:36 ~ 13:48	D-17	データ可聴化システムの基礎研究	[]
		13:48 ~ 14:00	D-18	cratch3.0の拡張機能を利用した教材の開発	[]
		14:00 ~ 14:05		休憩	
4	[] 研究室	14:05 ~ 14:17	D-19	んだごで温調機器の製作	[]
		14:17 ~ 14:29	D-20	電子制御2年実験テーマ「メカトロ制御の基礎実験」の開発	[]
		14:29 ~ 14:41	D-21	M5 stack Grayの9軸センサによる動作解析の試み	[]
		14:41 ~ 14:53	D-22	心拍情報伝送に適した無線通信方式の比較	[]
	[] 研究室	14:53 ~ 15:05	D-23	弾性体を用いた逐次逆張出し成形において新たに材料押さえ軌道を加えた場合の効果	[]
		15:05 ~ 15:17	D-24	高引張試験における数種のプラスチックのふるまい	[]

2日目：令和2年2月20日（木）

セクション	担任	8:50 ~ 8:55	出席確認, 諸注意		
		第5セクション 司会: [], タイムキーパー: [] (白井研) 第6セクション 司会: [], タイムキーパー: [] (鈴木研) 第7セクション 司会: [], タイムキーパー: [] (沢口研・関口研)			
5	[] 研究室	8:55 ~ 9:07	D-25	cilabとArduinoを用いたフィードバック制御環境の構築	[]
		9:07 ~ 9:19	D-26	修正目標値生成機構(Modified Reference Generator)に関する研究	[]
		9:19 ~ 9:31	D-27	床制振用AMDのフィードバック制御に用いる度信号推定	[]
		9:31 ~ 9:43	D-28	IDCによる振動台の制御	[]
		9:43 ~ 9:55	D-29	回転型起振機の改良	[]
		9:55 ~ 10:00		休憩	
6	[] 研究室	10:00 ~ 10:12	D-30	りの曲げ問題演習用プログラムの開発	[]
		10:12 ~ 10:24	D-31	有限要素法による寸法制限付き引張試験片の形状最適化	[]
		10:24 ~ 10:36	D-32	単結晶マイクロカンチレバーの変形の結晶塑性解析	[]
		10:36 ~ 10:48	D-33	分子動力学シミュレーションによる転位の対消滅距離の検討	[]
		10:48 ~ 10:53		休憩	
7	[] 研究室	10:53 ~ 11:05	D-34	走査ホール素子マグネトメトリに関する研究	[]
		11:05 ~ 11:17	D-35	屋内用環境計測システムに用いるCO2センサの評価	[]
		11:17 ~ 11:29	D-36	3Dプリンタを用いたヤンセンリンク機構の改良	[]
		11:29 ~ 11:41	D-37	presenseに関する研究	[]
		11:41 ~ 11:53	D-38	NFCを用いたドアロックシステムの構築	[]
		11:53 ~ 12:05	D-39	メカナムホイールを用いた移動ロボットの制御系の検討	[]

発表 質疑

1人	8分	4分	12分
2人	12分	6分	18分
3人	16分	8分	24分
休憩			5分

出典「電子制御工学科資料」

2019年10月16日
木更津工業高等専門学校
校点検・評価委員会

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」のお願い

木更津高専では教育活動の改善のために、卒業生・修了生の皆様にアンケートをお願いしております。つきましては、以下の QR コード等からアクセスしていただきましてアンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

アンケートの項目数は 11 個のため、数分以内で入力を終えることができます。また、お手元のスマートフォン、ご自宅のタブレットや PC 等からもアクセス可能です。ご多用中とは存じますが、何卒ご協力賜りますようお願いいたします。

アンケートページの QR コード：



アンケートページの短縮 URL：

[https://\[redacted\]](https://[redacted])

出典「木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」のお願い」

2019年 10月 16日
木更津工業高等専門学
校点検・評価委員会

企業の皆様へアンケートのお願い

木更津高専では教育活動の改善のために、企業の皆様にアンケートをお願いしております。つきましては、以下の QR コード等からアクセスしていただきましてアンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

アンケートの項目数は 7 つのため、数分以内で入力を終えることができます。また、お手元のスマートフォン、ご自宅のタブレットや PC 等からもアクセス可能です。ご多用中とは存じますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。

アンケートページの QR コード：



アンケートページの短縮 URL：

[https://\[REDACTED\]](https://[REDACTED])

出典「企業の皆様へアンケートのお願い」

2. 卒業（修了）者の産業別就職状況（令和元年度）

令和2年4月1日現在

	就 職 者 数									
	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科	合計	機械・電子システム工学専攻	制御・情報システム工学専攻	環境建設工学専攻	合計
A. 農業、林業						0				0
B. 漁業						0				0
C. 鉱業、採石業、砂利採取業						0				0
D. 建設業		1	1		7	9				0
E. 製造業	17	15	16	4	2	54	4	2		6
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	1					1	1			1
G. 情報通信業		2	6	10	2	20		6		6
H. 運輸業、郵便業	5	2	1		3	11			1	1
I. 卸売業・小売業						0				0
J. 金融業・保険業				1		1				0
K. 不動産業、物品賃貸業		2			1	3				0
L. 学術研究、専門・技術サービス業	2			1		3				0
M. 宿泊業、飲食サービス業						0				0
N. 生活関連サービス業、娯楽業						0				0
O. 教育、学習支援業						0		1		1
P. 医療、福祉						0				0
Q. 複合サービス事業						0				0
R. サービス業（他に分類されないもの）		1			1	2				0
S. 公務（他に分類されるものを除く）	1				5	6			3	3
T. 分類不能の産業					1	1				0
合計	26	23	24	16	22	111	5	9	4	18

4. 卒業（修了）者の進学先（令和元年度）令和2年4月1日現在

(1) 卒業者の進学先（令和元年度）

大学・高等専門学校名	学部・専攻科名	学科・課程名	進学者数
木更津工業高等専門学校	機械・電子システム工学専攻		14
木更津工業高等専門学校	制御・情報システム工学専攻		14
木更津工業高等専門学校	環境建設工学専攻		5
長岡技術科学大学	工学部	機械創造工学課程	4
長岡技術科学大学	工学部	情報・経営システム工学課程	1
長岡技術科学大学	工学部	電子情報工学課程	2
長岡技術科学大学	工学部	生物機能工学課程	1
長岡技術科学大学	工学部	環境社会基盤工学課程	4
千葉大学	工学部	機械工学コース	1
千葉大学	工学部	総合工学科情報コース	1
千葉大学	工学部	総合工学科	1
福井大学	工学部	機械・システム工学科	1
福井大学	工学部	電気電子情報工学科	1
北海道大学	工学部	情報エレクトロニクス学科	1
北海道大学	工学部	環境社会工学科	1
豊橋技術科学大学	工学部	電気・電子情報工学課程	3
豊橋技術科学大学	工学部	情報・知能工学課程	7
千葉工業大学	工学部	電気電子工学科	1
千葉工業大学	先進工学部	未来ロボテクス学科	2
千葉工業大学	創造工学部	都市環境工学科	1
東京農工大学	工学部	電気電子工学科	2
山梨大学	工学部	コンピュータ理工学科	1
筑波大学	理工学群	応用理工学類	1
筑波大学	理工学群	社会工学類	1
電気通信大学	情報理工学域	2類	2
富山大学	工学部	知能情報工学科	1
信州大学	工学部	電子情報システム工学科	1
横浜国立大学	都市科学部	都市基盤学科	1
日本大学	理工学部	まちづくり工学科	1
日本大学	理工学部	土木工学科	1
大学編入学者	計		45
専攻科進学者	計		33
その他	計		
総計			78

(2) 修了者の進学先（令和元年度）

大学名	研究科名	専攻名	進学者数
九州大学大学院	システム情報科学府	電気電子工学専攻	1
東京工業大学大学院	工学院	電気電子系	1
東京工業大学大学院	環境・社会理工学院	融合理工学系	1
筑波大学大学院	システム情報工学研究科	構造エネルギー工学専攻	7
筑波大学大学院	システム情報工学研究科	知能機能システム専攻	3
筑波大学大学院	システム情報工学研究科	コンピュータサイエンス専攻	2

筑波大学大学院	システム情報工学研究群	サービス工学学位プログラム	1
千葉大学大学院	融合理工学府	基幹工学専攻	1
東京医科歯科大学大学院	医歯学総合研究科	医歯理工保健学専攻	1
横浜国立大学大学院	理工学府	数物・電子情報系理工学専攻	1
東京大学大学院	新領域創成科学研究科	複雑理工学専攻	1
豊橋技術科学大学大学院		機械工学専攻	1
電気通信大学大学院	情報理工学研究科	情報・ネットワーク工学専攻	1
慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科		1
総計			23

[3] ディプロマポリシー（修了認定の方針）

木更津工業高等専門学校専攻科では、各分野の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養を有した、質の高い創造的・指導的・国際的エンジニアとして、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学士認定資格を満たし、以下の能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。

1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。
2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。
3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。

資料 | 学生便覧 1-17 専攻科課程の履修要領

1-17 専攻科課程の履修要領

専攻科授業科目の履修等に関する規程(5-4 参照)を必ず通読してください。

(1) 単位、開設科目、修了要件、履修申請、成績評価、再試験、次年度以降の履修

① 1単位の授業時間(大学設置基準に準拠します)

本科と異なり、1単位は標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されます。実際に時間割に組み込まれる授業時間数は、次のようになります。

講義科目：1単位あたり15時間の授業で、30時間の予習復習が課せられます。

演習科目：1単位あたり30時間の授業で、15時間の予習復習が課せられます。

実験および実習科目：1単位あたり45時間の授業です。

特別研究は学生の主体的な取り組みを前提としています。

特別研究は、1年次は270時間以上(6単位)、2年次は360時間以上(8単位)の指導教員による直接指導を標準とします。

② 開設科目

一般科目、専門共通科目及び専門専攻科目があります。(教育課程表1-16参照)

③ 専攻科の修了要件

修了要件は、一般科目8単位、専門共通科目22単位以上、専門専攻科目32単位以上、合計62単位以上の修得です。この中には、必修39単位と必修選択10単位以上を含みます。

ただし、8単位を超えない範囲で他専攻の専門専攻科目を履修できます。また、申請により認められれば、4単位を超えない範囲で大学等において修得した単位を専攻科における授業科目の履修とみなすことができます。(5-4参照)

④ 科目の履修申請

科目の履修については、前期および後期の授業開始日から2週間以内に、科目履修申請書を各専攻主任経由で学生課教務係まで提出してください。

⑤ 成績の評価

各科目の学業成績は、シラバス記載の「評価方法および評価基準」に従って100点法により評価し、次の区分によって評定します。

評点	100~80	79~70	69~60	59以下
評定	A	B	C	D

授業時間数の3分の1以上を欠席した場合の評点は、59以下となります。評点が60以上の場合に、その科目の単位修得を認定します。

⑥ 再試験

単位を認定されなかった場合、次期以降に再試験を受けることができます。

ただし、演習科目、実験科目、および3分の1以上を欠席した科目を除きます。再試験による評点の上限は60点です。再試験を希望する学生は、再試験受験願を科目担当

教員へ提出してください。

⑦ 次年度以降の履修

単位を認定されなかった科目は、次年度以降に履修することができます。履修方法は通常の履修と同様です。

(2) 特別研究

① 特別研究について

特別研究は、専攻科の教育目的を達成するために最も重要な科目として位置づけられており、各専攻ともに必修科目として、1年前期から履修を義務づけています。1年生の後期に専攻ごとに中間発表を行い、2年生の年度末には3専攻合同の専攻科研究発表会を行います。この専攻科研究発表会は、広く学外にも一般公開されます。

自主的な研究への取り組みを促すため、年度当初に予定テーマを掲示し、学生の工学的興味をできるだけ尊重してテーマを決定します。指導教員の下で個別課題について研究を計画立案させ、文献検索から始まり、実験的手法、理論的手法、評価方法等を体得させ、論文作成および発表までを指導します。

② 専攻科特別研究状況報告書

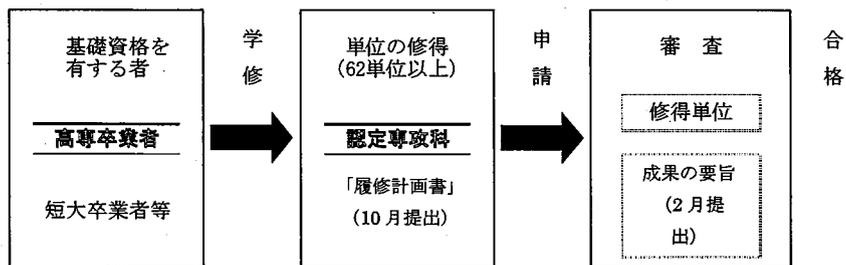
特別研究の計画的な研究実施と、指導の徹底を図り、その記録を残すために、専攻科特別研究状況報告書を作成します。報告書には、毎日の研究時間と研究内容を記録し、指導教員がチェックします。

③ 研究成果の学会発表

各学会の研究発表会等の機会を利用して、積極的に研究成果を発表するように心がけてください。学会での研究発表を奨励するために、1回の発表について1万円以内で、1人につき年2回を限度として、後援会から旅費を補助します。その際は、専攻科研究発表補助費請求書を提出してください。

(3) 学位（学士）の取得

平成3年7月に学位授与機構（平成12年4月に大学評価・学位授与機構となる）が創設され、高等専門学校卒業生で一定の要件を満たした場合、大学評価・学位授与機構の審査に合格すれば、学士の学位が取得できます。



資料「卒業生・修了生アンケートの依頼」

2019年10月16日

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」のお願い

木更津高専では教育活動の改善のために、卒業生・修了生の皆様にアンケートをお願いしております。つきましては、以下のQRコード等からアクセスしていただきましてアンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

アンケートの項目数は11個のため、数分以内で入力を終えることができます。また、お手元のスマートフォン、ご自宅のタブレットやPC等からもアクセス可能です。ご多用中とは存じますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。

アンケートページのQRコード：



アンケートページの短縮URL：

[https://\[redacted\]](https://[redacted])

平成31年3月修了予定者進路状況

機械・電子システム	進路先	制御・情報システム	進路先	環境建設	進路先
1 ■ ■	九州大学大学院 システム情報科学府 電気電子工学専攻	1 ■ ■	株式会社ゆめみ	1 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻
2 ■ ■	東京工業大学大学院工学院電気電子系	2 ■ ■	出光興産株式会社	2 ■ ■	千葉県庁 土木上級
3 ■ ■	コスモ工機株式会社	3 ■ ■	株式会社スカイアーチネットワークス	3 ■ ■	東日本旅客鉄道株式会社
4 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻	4 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻	4 ■ ■	東京工業大学大学院環境・社会理工学院融合理工学系 地球環境共創コース
5 ■ ■	千葉大学大学院 融合理工学府 基幹工学専攻 機械工学コース	5 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻	5 ■ ■	千葉市役所 土木上級
6 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻	6 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科知能機能システム専攻	6 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻
7 ■ ■	東京医科歯科大学大学院 歯学部総合研究科 歯理工学保健学専攻	7 ■ ■	株式会社エム・ソフト	7 ■ ■	君津市役所 土木上級
8 ■ ■	横浜国立大学 大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻	8 ■ ■	株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート	8 ■ ■	筑波大学大学院博士前期課程システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻
9 ■ ■	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻	9 ■ ■	エヌ次元株式会社		
10 ■ ■	豊橋技術科学大学大学院 機械工学専攻	10 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻		
11 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻	11 ■ ■	株式会社ALBERT		
12 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻	12 ■ ■	エスエイティーン株式会社		
13 ■ ■	株式会社アマダホールディングス	13 ■ ■	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科?		
14 ■ ■	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻	14 ■ ■			
15 ■ ■	本田技研工業株式会社	15 ■ ■	進学予定		
16 ■ ■	株式会社荏原製作所	16 ■ ■	筑波大学大学院 システム情報工学研究科知能機能システム専攻		
17 ■ ■	AGC株式会社	17 ■ ■	ボッシュ株式会社		

女子学生

進学

就職

その他